

令和 7 年度

学校生活に関する児童・生徒及び保護者

アンケート報告書

足立区 教育委員会事務局 教育指導部

令和 7 年 1 1 月発行

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	3
2 調査の時期.....	3
3 今回の母数、回答者数.....	3
4 回答者の構成.....	4
5 報告書の見方.....	7
第2章 調査結果のポイント.....	8
1 調査結果のポイント《児童・生徒》.....	9
2 調査結果のポイント《保護者》.....	15
第3章 調査結果の詳細.....	20
設問体系と回答の概要《児童・生徒》.....	21
Q 2 学校生活で最も大切にしていること.....	26
Q 3 (1)～(3) 学校はどのようなところか.....	26
Q 4 自分の将来についてどのように感じているか.....	27
Q 5 どのような不安か.....	28
Q 6 学校生活で困ったときに、学校の中で相談したことがある人.....	29
Q 7 施設やサービスを、1つでも利用していた、または、利用しているか.....	30
Q 8 今、学校に行けているか.....	31
Q 9 学校に行けていなかったときがあるか.....	31
Q 10 (1) 学校を休んでいる期間.....	32
Q 10 (2) 学校に行けていないとき、休んでいた期間.....	32
Q 11、Q 13、Q 15 以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか.....	33
Q 17、Q 19、Q 21 以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか.....	34
Q 12 Q 11「学校の過ごしやすさ」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容 ..	35
Q 14 Q 13「勉強」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容 ..	36
Q 16 Q 15「友達や先生との人間関係」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容 ..	37
Q 18 Q 17「家族や家庭環境」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容	38
Q 20 Q 19「気持ちや体調」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容	39
Q 22 Q 21「その他の理由」で学校に行きたくないと感じる具体的な内容	40
Q 23 学校に行きたくないときに、助けてほしいこと.....	41
Q 24 学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか.....	42
Q 25 最も休みが多かった学年 Q 26 学校に行くようになった時期.....	43
Q 27 学校に行くようになった理由.....	44
Q 28 学校に行くようになった後、欲しいサポート.....	45
設問体系と回答の概要《保護者》.....	46
Q 3 子の学校生活で最も大切なこと.....	49
Q 4 (1)～(4) 子にとって学校はどのようなところか.....	50

Q 5	Q 4の(1)～(4)のうち、最も重要だと考えるもの	50
Q 6	子について、悩んでいることがあるか	51
Q 7	悩みの内容	51
Q 8	子が学校生活で困ったときに、親が学校の中で相談した人	52
Q 9	子は、施設やサービスを、1つでも利用していた、または利用しているか	53
Q 10	子が施設やサービスを利用したきっかけ	54
Q 11	子は現在、学校に行けているか	54
Q 12	子は学校に行けていなかった時期があるか	55
Q 13 (1)	子が学校を休んでいる期間	55
Q 13 (2)	子が学校に行けていないとき、学校を休んでいる期間	55
Q 14～Q 19	以下の理由で子は学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	56
Q 20	子が学校に行けないとき、学校から欲しいサポート	57
Q 21	子が学校に行けないとき、学校以外から欲しいサポート	58
Q 22	子が学校に行く、または行けるようになった時期	59
Q 23	子が最も休んでいた学年	59
Q 24	子が学校に行く、または行けるようになった理由と思うもの	60
Q 25	子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポート	61
第4章	設問・選択肢一覧	62

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

児童・生徒の状況に応じた支援に加え保護者への支援を一層充実させるため、全児童・生徒及び保護者にアンケートを行い、児童・生徒の実態を捉え、深く分析し支援策を講じる。

2 調査の時期

小学校・中学校 令和7年9月8日（火）～令和7年10月7日（火）

保護者 令和7年9月8日（火）～令和7年9月30日（火）

3 今回の母数、回答者数

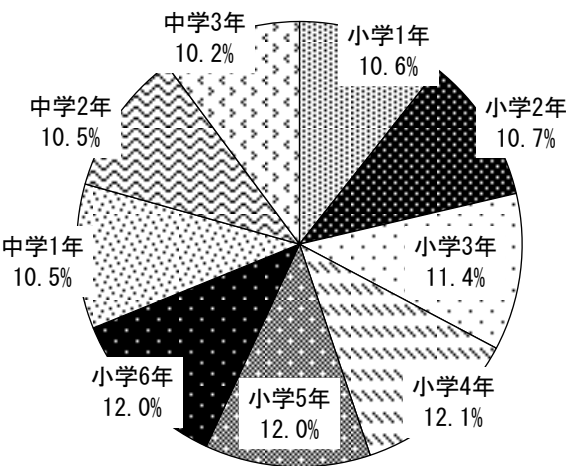
	母数	回答者数	回答率
小学校	28,706 人	24,860 人	86.6%
中学校	13,343 人	11,244 人	84.2%
保護者	30,213 世帯	12,670 世帯	41.9%

※母数はいずれも令和7年9月1日時点

※無効回答があったため、無効回答は除外した

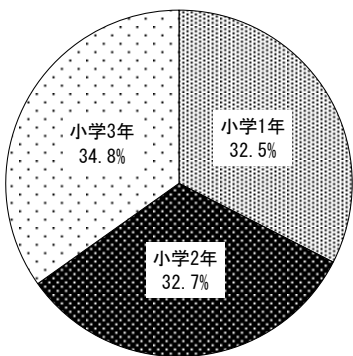
4 回答者の構成

(1) 児童・生徒の学年
＜全体＞



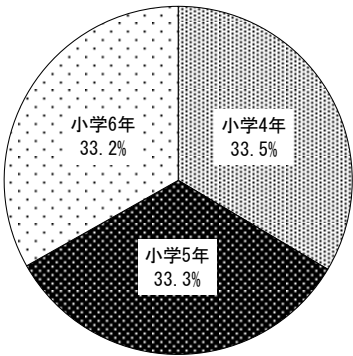
全体(回答者数=36104)

＜低学年＞



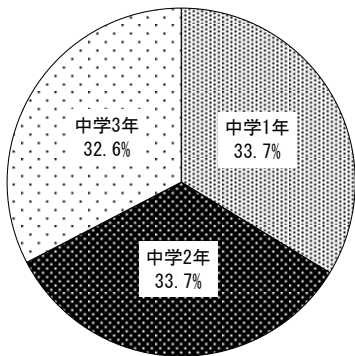
低学年(回答者数=11821)

＜高学年＞



高学年(回答者数=13039)

＜中学校＞



中学校(回答者数=11244)

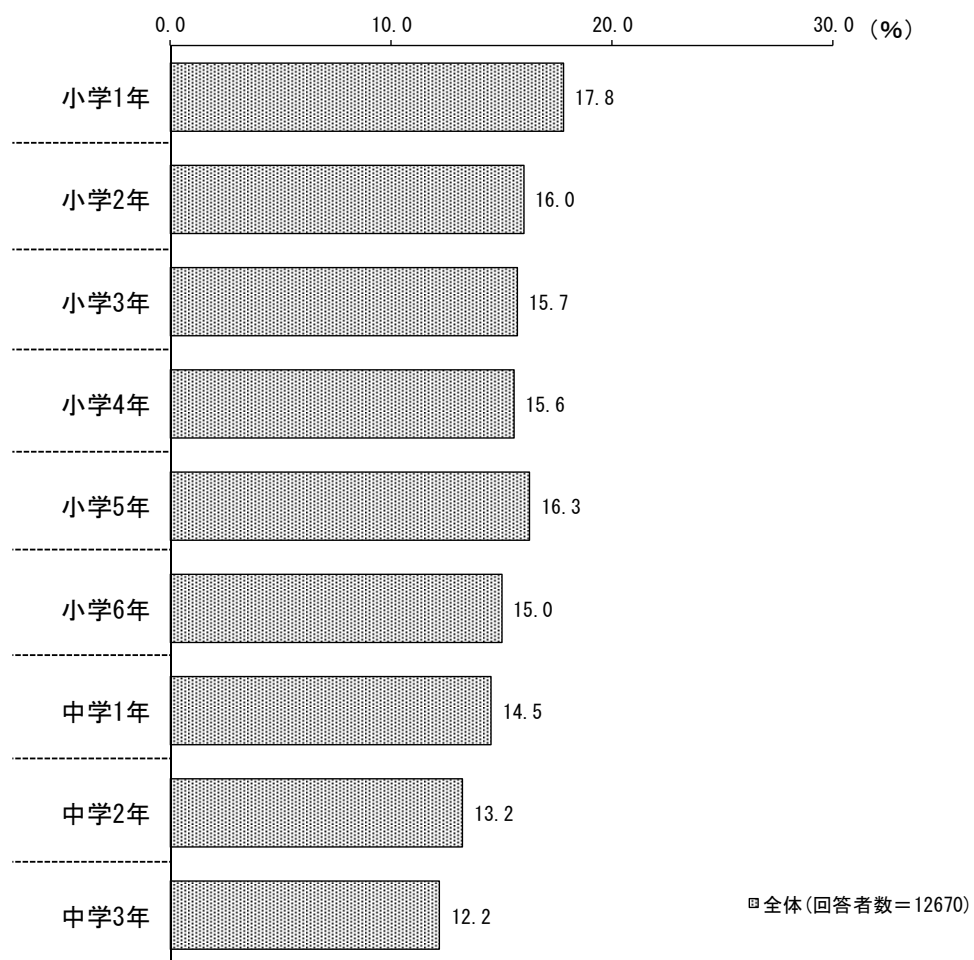
(2) 保護者

<居住地域>

居住地域	世帯数	割合(%)
青井	305	2.4
足立	291	2.3
綾瀬	379	3.0
伊興	272	2.1
伊興本町	67	0.5
入谷	163	1.3
梅島	201	1.6
梅田	473	3.7
扇	314	2.5
大谷田	255	2.0
興野	120	0.9
小台	125	1.0
加賀	73	0.6
加平	100	0.8
北加平町	44	0.3
栗原	199	1.6
弘道	99	0.8
江北	366	2.9
古千谷本町	161	1.3
佐野	135	1.1
皿沼	79	0.6
鹿浜	289	2.3
島根	286	2.3
新田	417	3.3
神明	116	0.9
神明南	69	0.5
関原	227	1.8
千住	118	0.9
千住曙町	124	1.0
千住旭町	40	0.3
千住東	115	0.9
千住大川町	62	0.5
千住河原町	65	0.5
千住寿町	40	0.3
千住桜木	73	0.6
千住関屋町	92	0.7
千住龍田町	40	0.3
千住中居町	32	0.3
千住仲町	73	0.6
千住橋戸町	150	1.2
千住緑町	145	1.1
千住宮元町	47	0.4
千住元町	78	0.6

居住地域	世帯数	割合(%)
千住柳町	29	0.2
竹の塚	228	1.8
辰沼	53	0.4
中央本町	254	2.0
椿	40	0.3
東和	350	2.8
舎人	285	2.2
中川	264	2.1
西綾瀬	136	1.1
西新井	343	2.7
西新井栄町	213	1.7
西新井本町	278	2.2
西伊興	166	1.3
西加平	26	0.2
西竹の塚	34	0.3
西保木間	173	1.4
花畑	314	2.5
東綾瀬	202	1.6
東伊興	119	0.9
東保木間	112	0.9
東六月町	64	0.5
一ツ家	150	1.2
日ノ出町	72	0.6
平野	113	0.9
保木間	216	1.7
保塚町	72	0.6
堀之内	39	0.3
南花畑	310	2.4
宮城	80	0.6
六木	177	1.4
本木	79	0.6
本木北町	24	0.2
本木西町	14	0.1
本木東町	37	0.3
本木南町	32	0.3
谷在家	120	0.9
谷中	152	1.2
柳原	89	0.7
六月	204	1.6
六町	88	0.7
合計	12670	100.0

<子の学年>



5 報告書の見方

- (1) 回答比率(%)は、その設問の回答者を基礎として算出。小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで示したもので、比率の合計が100.0%に満たない、または上回ることもある。
- (2) 複数回答の設問は、すべて比率を合計すると100.0%を上回ることがある。
- (3) 児童・生徒向け調査の問番号は中学校の調査票を基準に表記している。
- (4) 無回答は無かったため、グラフ・表中には表記していない。

第2章 調査結果のポイント

《児童・生徒》

- (1) 「学校は行きたいところ」「学校は安心できる場所」と思う割合が、小学校低学年から中学生にかけて低下。
- (2) 将来に不安を感じている中学生のうち、進学に不安を感じている生徒が約6割。
- (3) 「学校に行きたくない」と感じている、または不登校の理由は、学年問わず気持ちや体調が最も多く、2番目に勉強が多い。
- (4) 欲しいサポートについて、「特になし」と回答する割合は学年が上がる程、高くなる。一方、低学年の児童は、周囲からの声掛けを求めている割合が比較的高い。
- (5) 学校へ行くようになった理由は学年問わず、友だちとの人間関係の改善が最も多い。低学年においては、勉強の課題の改善も約45%が回答している。

《保護者》

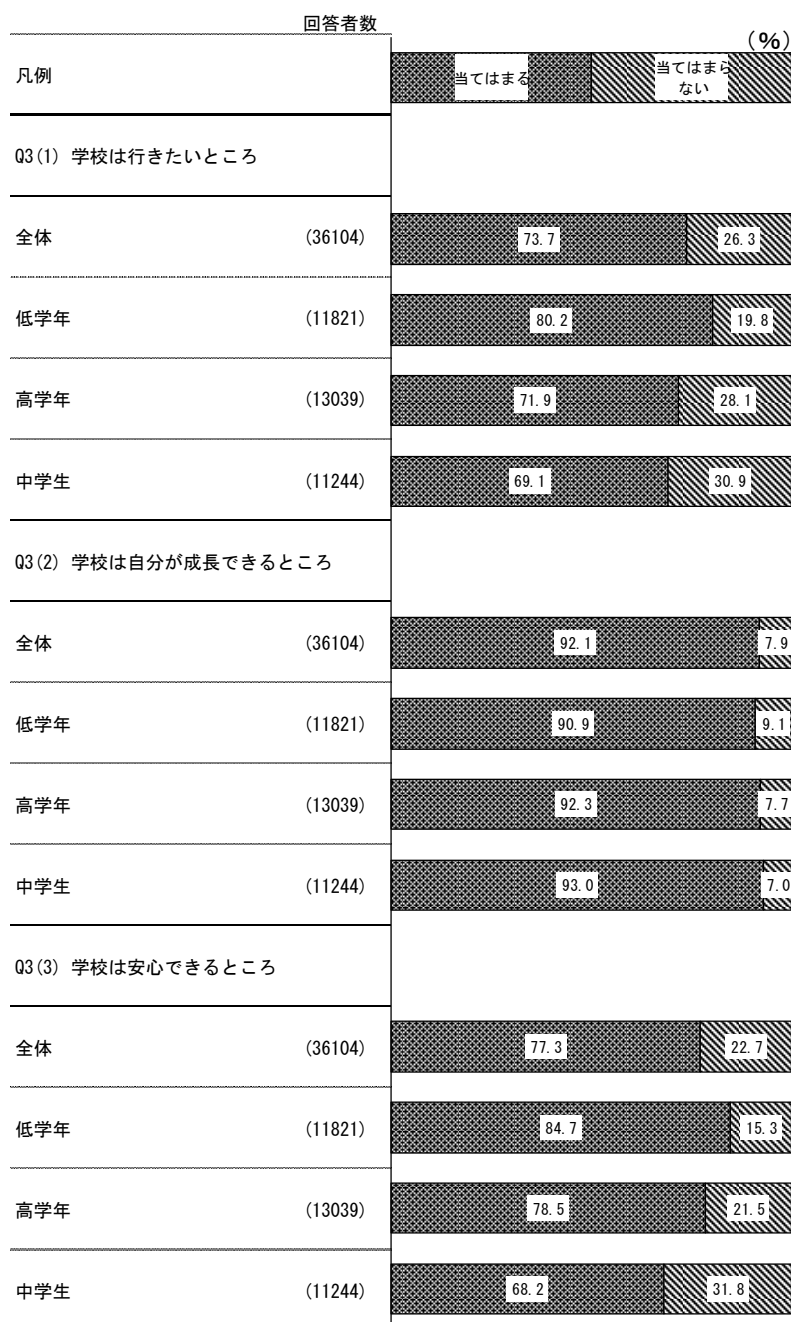
- (1) 学校生活において友達を重要視する割合が最も高く、子にとって学校とは多様な経験を得られるところだと考えている。
- (2) 子の不登校の理由は、約9割が子自身の気持ちや体調だと考えている
- (3) 子が学校に行けない時、学校に求めるサポートは、学習の場の提供が最も多い。学校以外から求めるサポートは、学校以外の子どもの居場所の提供が最も多い。また、復帰後は先生からの気配りが最も多い。
- (4) 保護者が考える子が学校に行くようになった理由は、友達との人間関係の改善が最も多い。

1 調査結果のポイント《児童・生徒》

(1) 「学校は行きたいところ」「学校は安心できるところ」と思う割合が、小学校低学年から中学生にかけて低下

「Q3 あなたにとって学校とはどのようなところ（場所）ですか。それぞれについて、あてはまる、あてはまらない、を教えてください。」と尋ねたところ「(1) 行きたいところ」で「あてはまる」と回答した割合は、低学年が 80.2%、高学年が 71.9%、中学生が 69.1%だった。また「(3) 安心できるところ」と回答した割合は、低学年が 84.7%、高学年が 78.5%、中学生が 68.2%だった。

＜Q3 学校とはどのようなところか＞

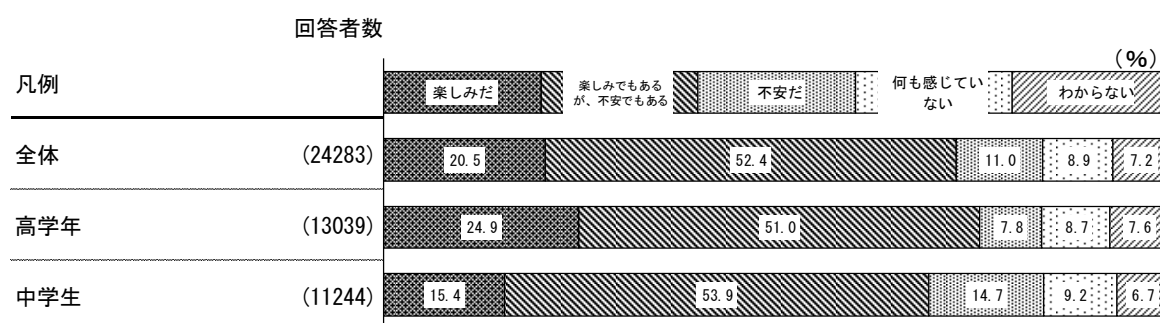


(2) 将来に不安を感じている中学生のうち、進学に不安を感じている生徒が約 6 割

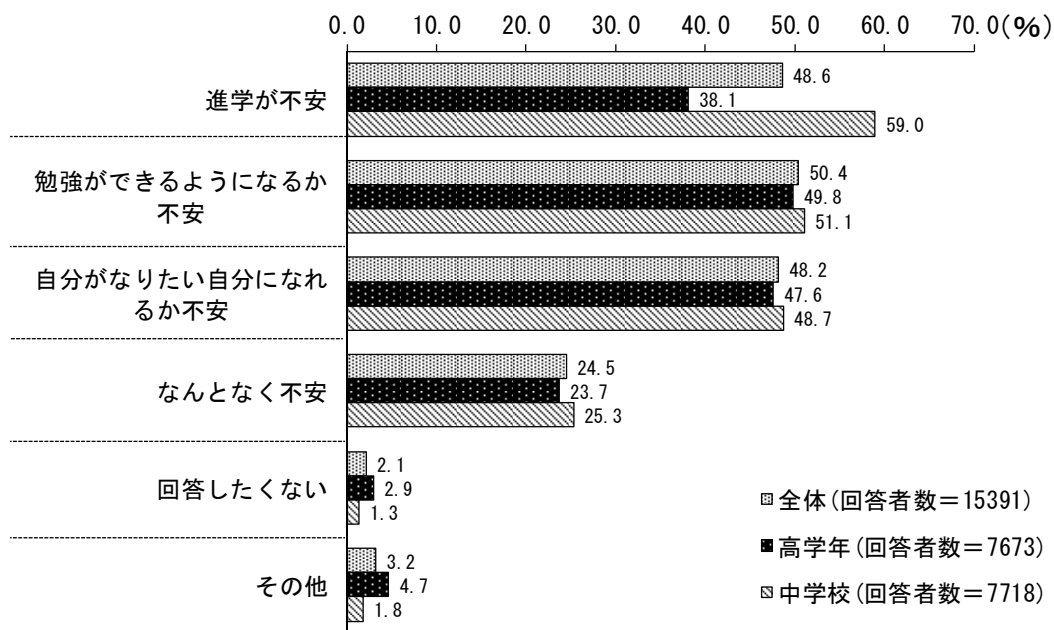
「Q 4 自分の将来についてどのように感じていますか。」で「楽しみでもあるが、不安でもある」と回答した割合は高学年が 51.0%、中学生が 53.9%だった。また「不安だ」と回答した割合は高学年が 7.8%、中学生が 14.7%と、高学年と比較して中学生が不安を感じている割合が高かった。

また「Q 5 それはどのような不安ですか。」と尋ねたところ「進学が不安」と回答した割合は、高学年が 38.1%だった。一方、中学生は 59.0%と高学年より約 20pt 高く、中学生は特に進学に不安を感じていることがうかがえる。

< Q 4 自分の将来についてどのように感じているか >



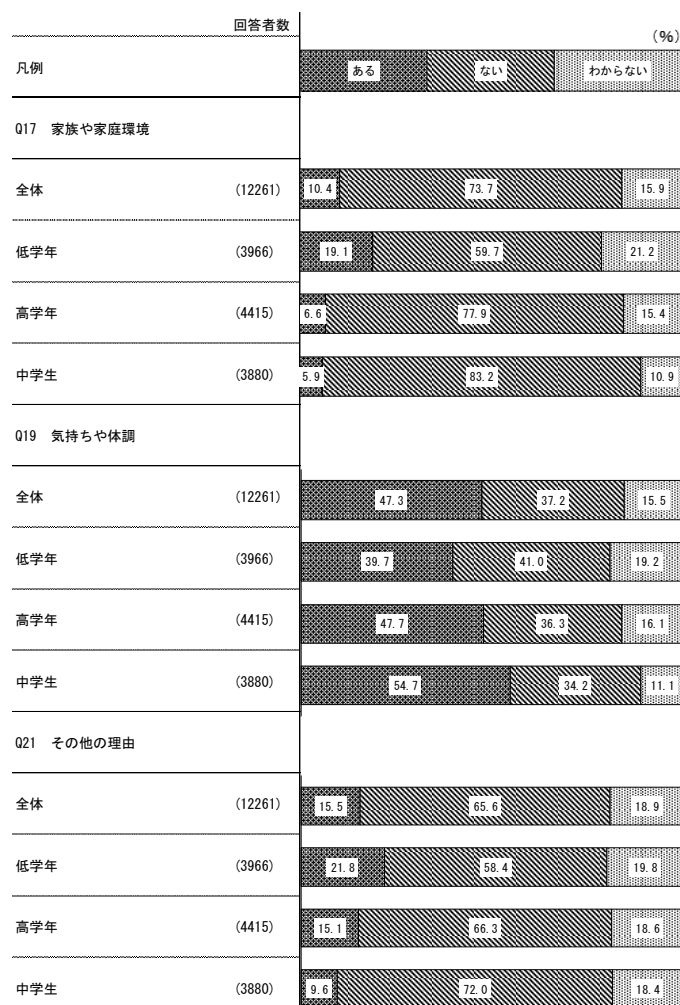
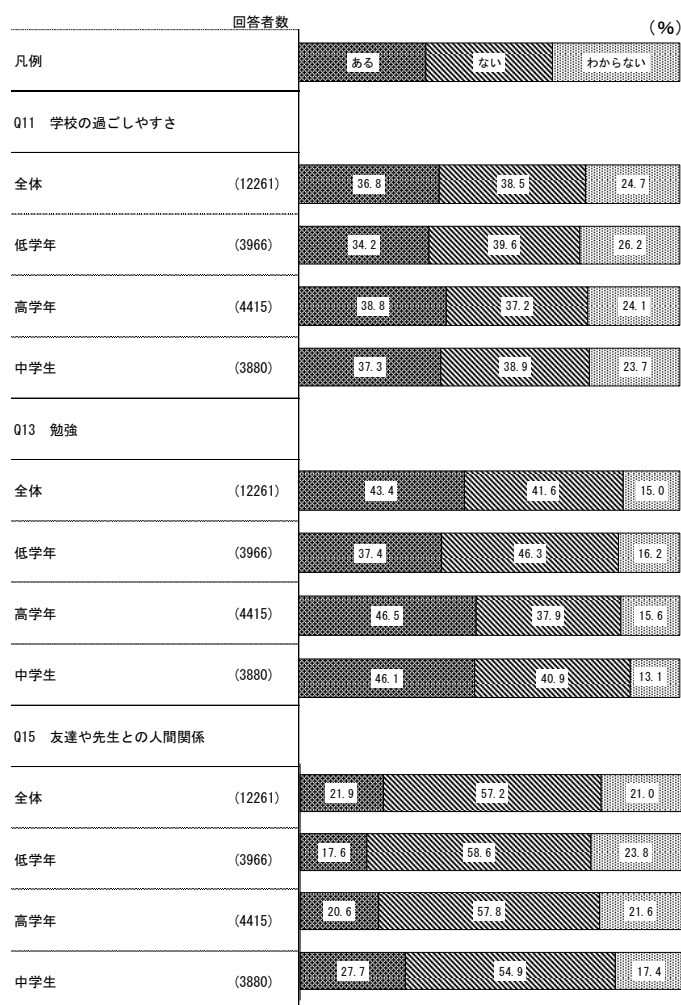
< Q 5 どのような不安か >



(3)「学校に行きたくない」と感じている、または不登校の理由は、学年問わず気持ちや体調が最も多く、2 番目に勉強が多い

「学校の過ごしやすさ」「勉強」「友達や先生との人間関係」「家族や家庭環境」「気持ちや体調」「その他」が理由で「学校に行きたくない」と感じたことがあるか尋ねたところ、「気持ちや体調」で「ある」と回答した割合が、低学年は 39.7%、高学年は 47.7%、中学生が 54.7%と、他の理由に比べて高かった。次いで「勉強」であると回答した割合が低学年は 37.4%、高学年は 46.5%、中学生が 46.1%と 2 番目に高かった。

<学校に行きたくない理由>



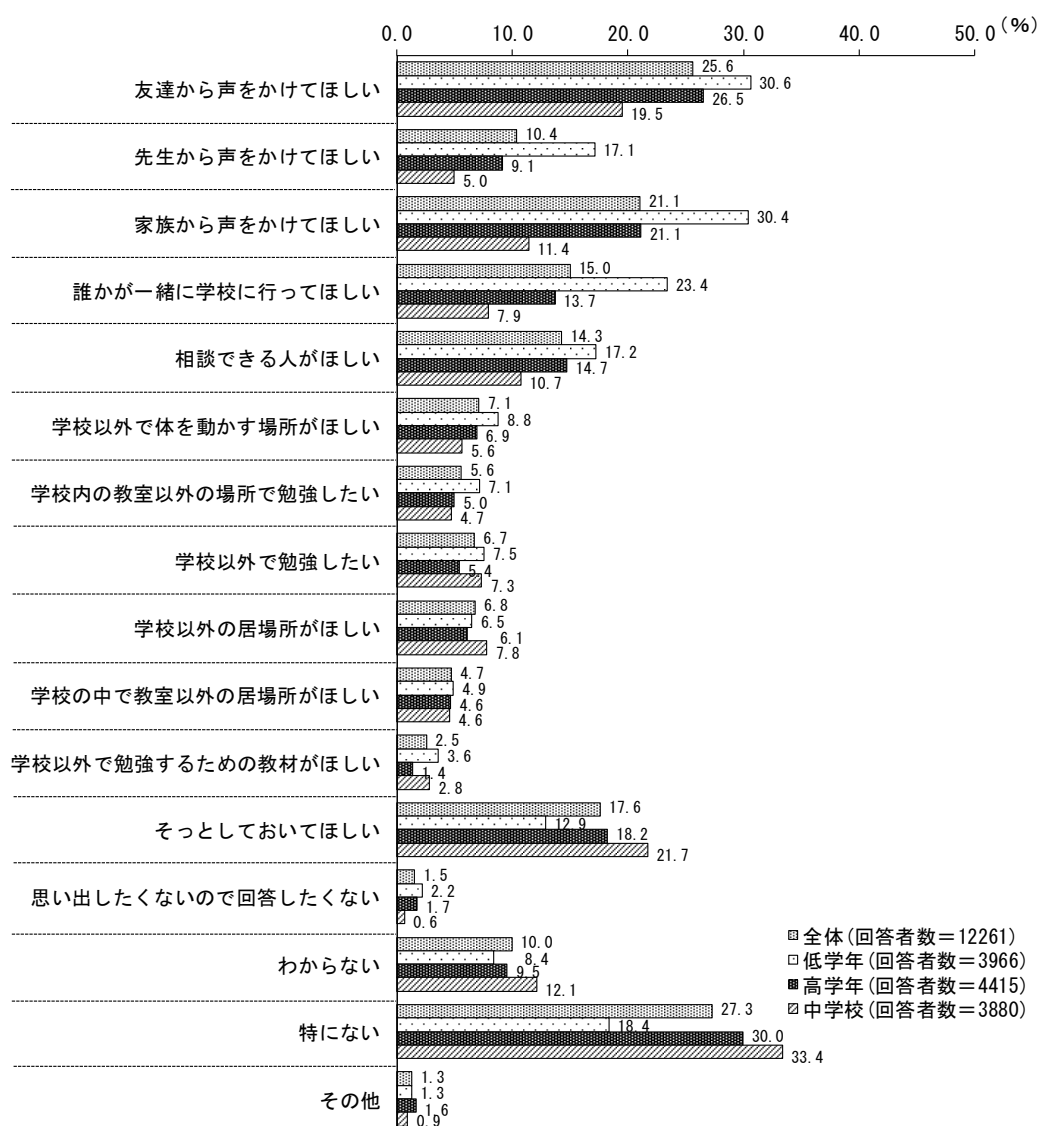
(4) 求めるサポートについて、「特にない」と回答する割合は学年が上がる程、高くなる。一方、低学年の児童は、周囲からのサポートを求めている割合が比較的高い。

「Q 2 3 学校に行きたくない時に助けてほしいことは何ですか。」と尋ねたところ、「特にない」と回答した割合が、高学年は 30.0%、中学生が 33.4%と最も高かった。

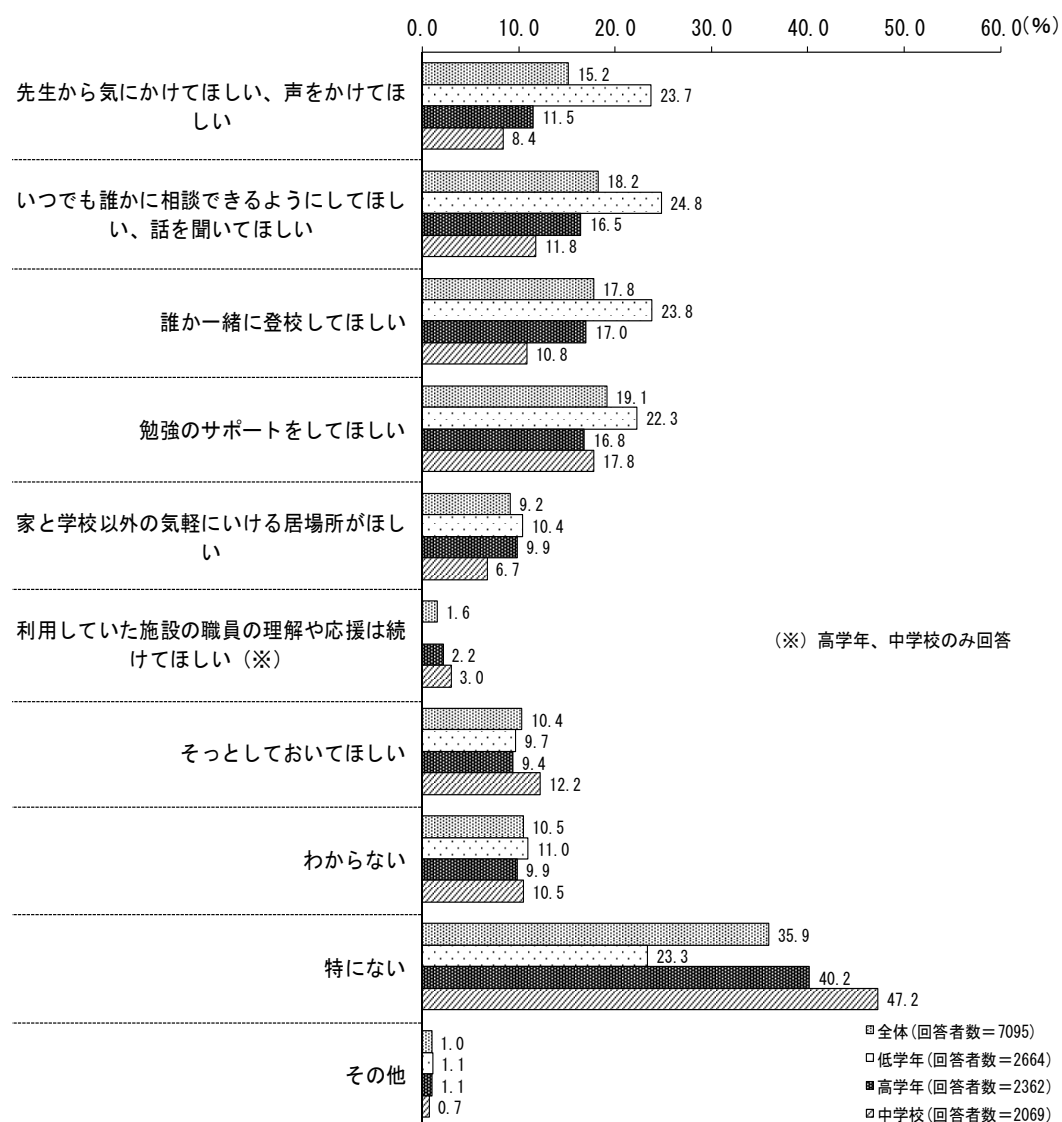
また「Q 2 8 学校に行くようになった後、どのようなサポートが欲しいですか。」と尋ねたところ、「特にない」と回答した割合が、高学年は 40.2%、中学生が 47.2%と Q 2 3 と同様に最も高く、高学年と中学生は周囲からのサポートを特に求めていることがうかがえる。

一方、低学年においては、Q 2 3 は「友達から声をかけてほしい」が 30.6%と最も高く、「家族から声をかけてほしい」が 30.4%と 2 番目に高かった。また、Q 2 8 では「いつでも誰かに相談できるようにしてほしい」が 24.8%、「誰か一緒に登校してほしい」が 23.8%と、低学年は周囲からのサポートを求めていることがうかがえる。

<Q 2 3 学校に行きたくない時に助けてほしいこと>



< Q 2 8 学校に行くようになった後、欲しいサポート >

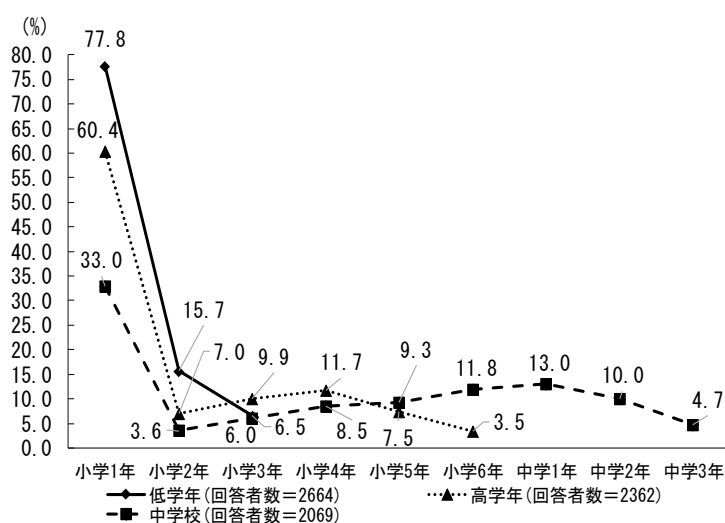


(5) 学校へ行くようになった時期は高学年、中学生において小学1年が最も多く、学校へ行くようになった理由は学年問わず、友達との人間関係の改善が最も多い。

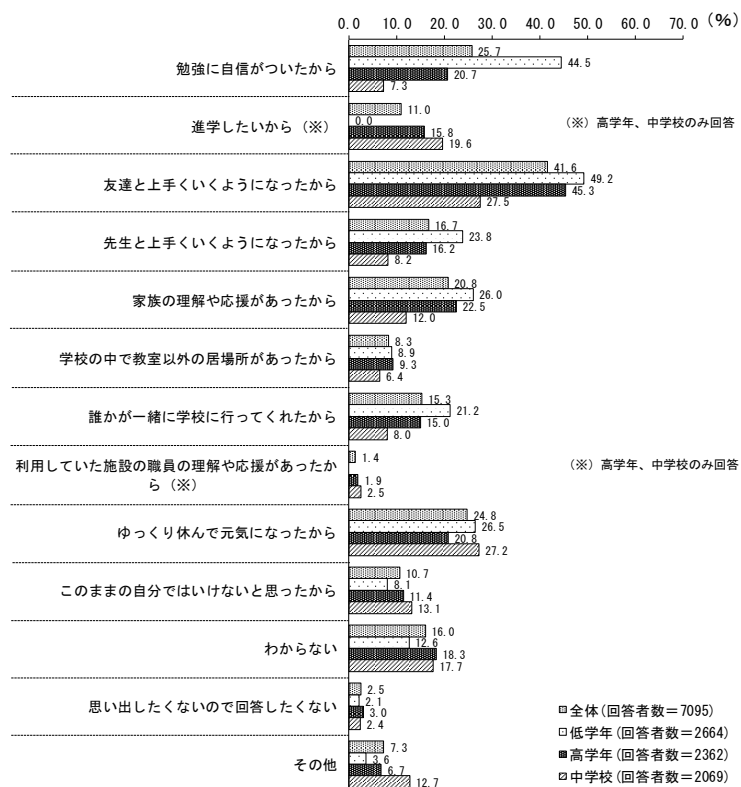
「Q26 いつから学校に行く、または行けるようになりましたか。」と尋ねたところ、高学年が60.4%、中学生が33.0%と小学1年と回答した割合が最も高かった。

また「Q27 なぜ学校に行く、または行けるようになりましたか。」と尋ねたところ、「友達と上手くいくようになったから」と回答した割合が低学年は49.2%、高学年は45.3%、中学生が27.5%と最も高かったことから、学年問わず友達との人間関係の改善が復帰を促すことが考えられる。

<Q26 学校に行くようになった時期>



<Q27 学校に行くようになった理由>



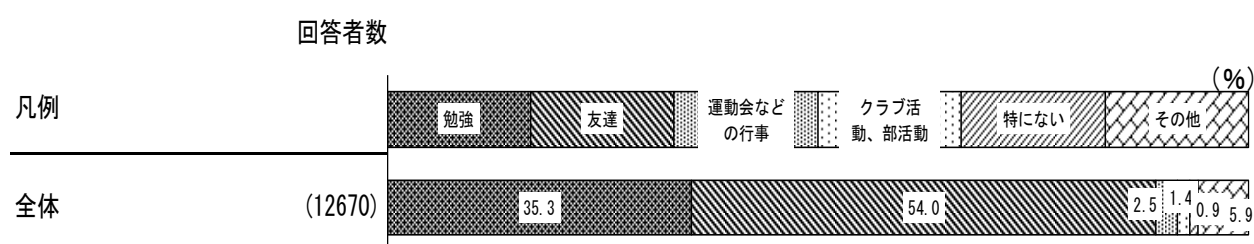
2 調査結果のポイント《保護者》

（１）学校生活において友達を重要視する割合が最も高く、子にとって学校とは多様な経験を得られるところだと考えている。

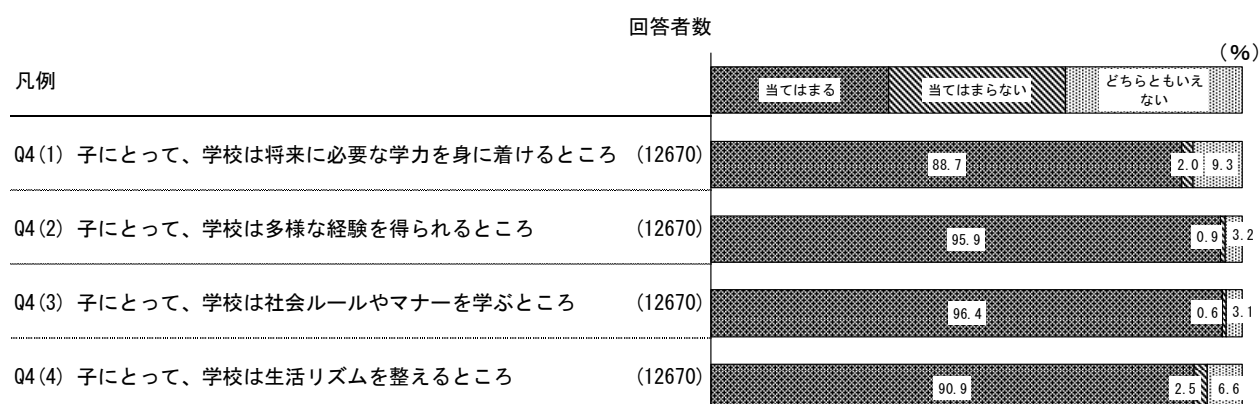
「Ｑ３ あなたはお子さんの学校生活で最も大切なものは何だと考えますか。」と尋ねたところ、「友達」と回答した割合が 54.0%と最も高かった。

また、子にとって学校とはどのようなところか尋ねた「将来に必要な学力を身に着けるところ」「多様な経験を得られるところ」「社会ルールやマナーを学ぶところ」「生活リズムを整えるところ」のうち、最も重要だと思うことを尋ねたところ、「多様な経験を得られるところ」と回答した割合が 41.1%と最も高かった。

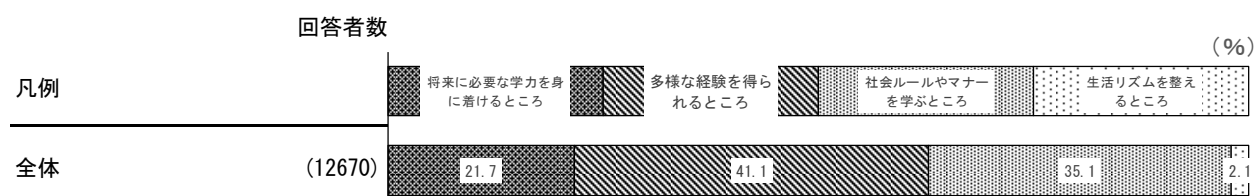
＜Ｑ３ 子の学校生活で最も大切なもの＞



＜Ｑ４（１）～（４） 子にとって学校とはどのようなところか＞



＜Ｑ５ Ｑ４（１）～（４）のうち、最も重要だと考えるもの＞



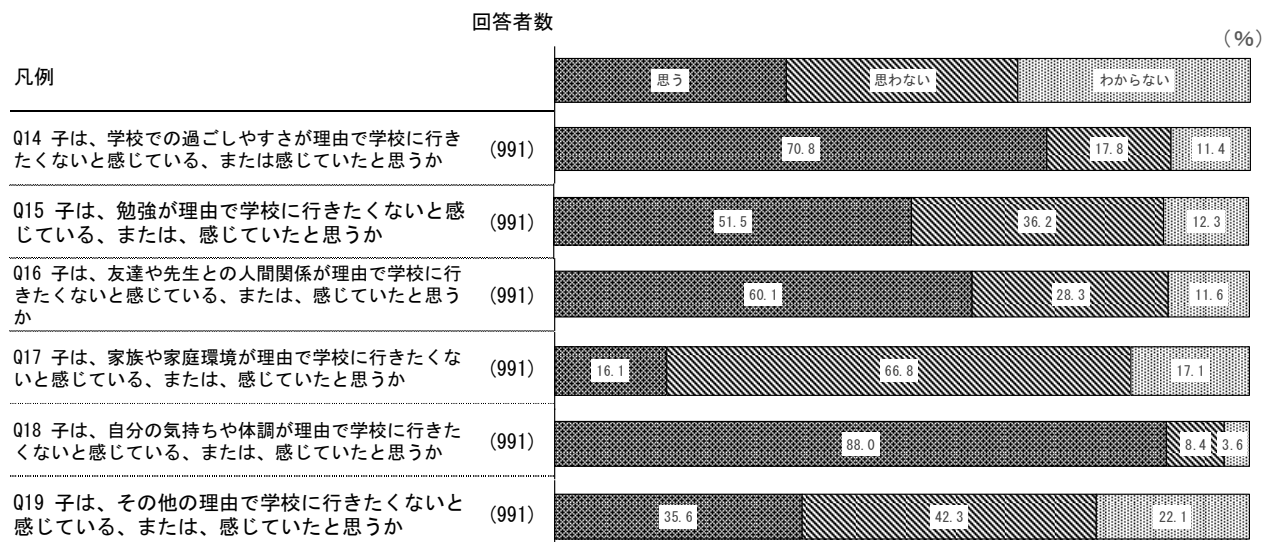
(2) 子の不登校の理由は、約 9 割が子自身の気持ちや体調だと考えている。

「Q 1 1 お子さんは現在、病気、風邪、けが、旅行、コロナなどを理由とした欠席・休暇、休校時を除き、学校に行けていますか。」で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した保護者に、子の不登校の理由を尋ねたところ、88.0%が子自身の気持ちや体調が理由だと考えていた。

< Q 1 1 子は現在、学校に行けているか >



< Q 1 4 ~ Q 1 9 子が学校に行きたくないと感じている、または感じていた理由 >



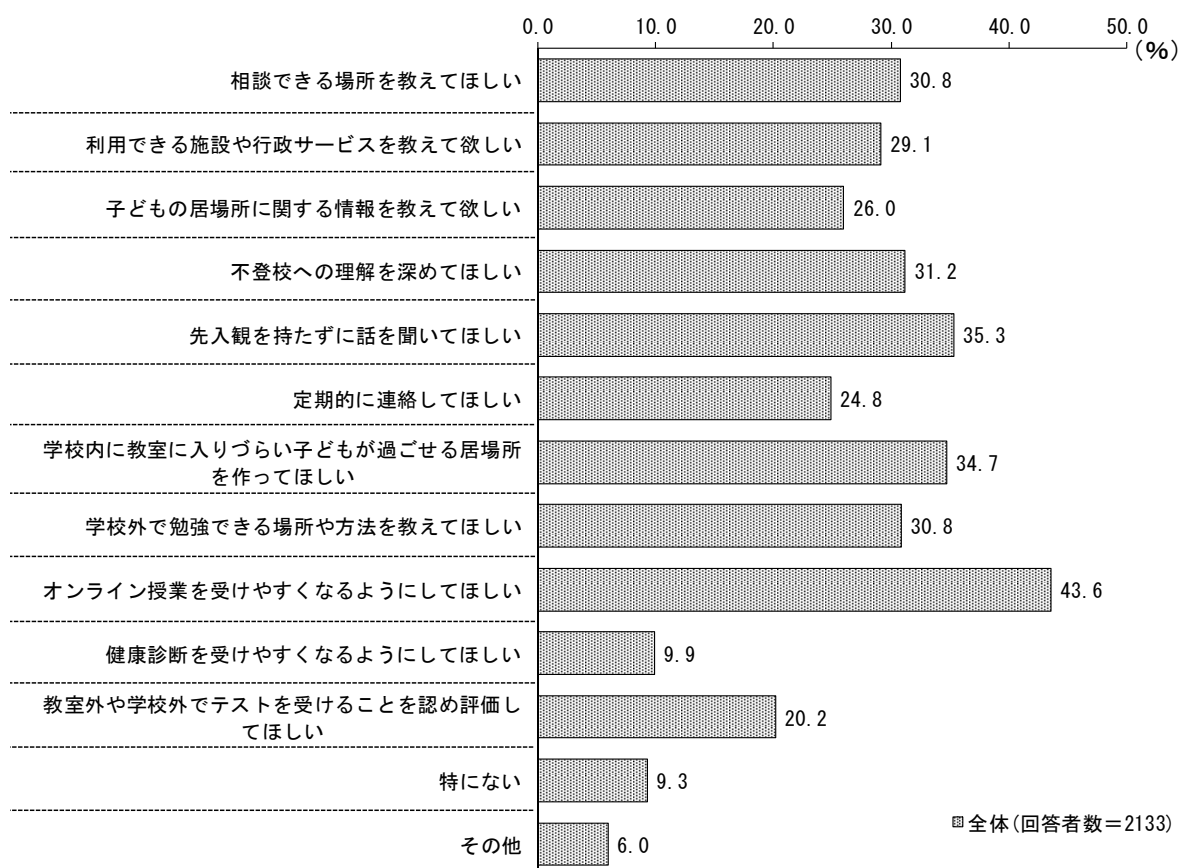
(3) 子が学校に行けない時、学校に求めるサポートは、学習の場の提供が最も多い。
学校以外から求めるサポートは、学校以外の子どもの居場所提供が最も多い。また、復帰後に求めるサポートは、周囲からの情緒的なサポートを求める傾向。

「Q20 お子さんが学校に行けないとき、あなたは学校からどのようなサポートがあったらいいと思いますか。」と尋ねたところ、「オンライン授業を受けやすくなるようにしてほしい」と回答した割合が43.6%と最も高かった。

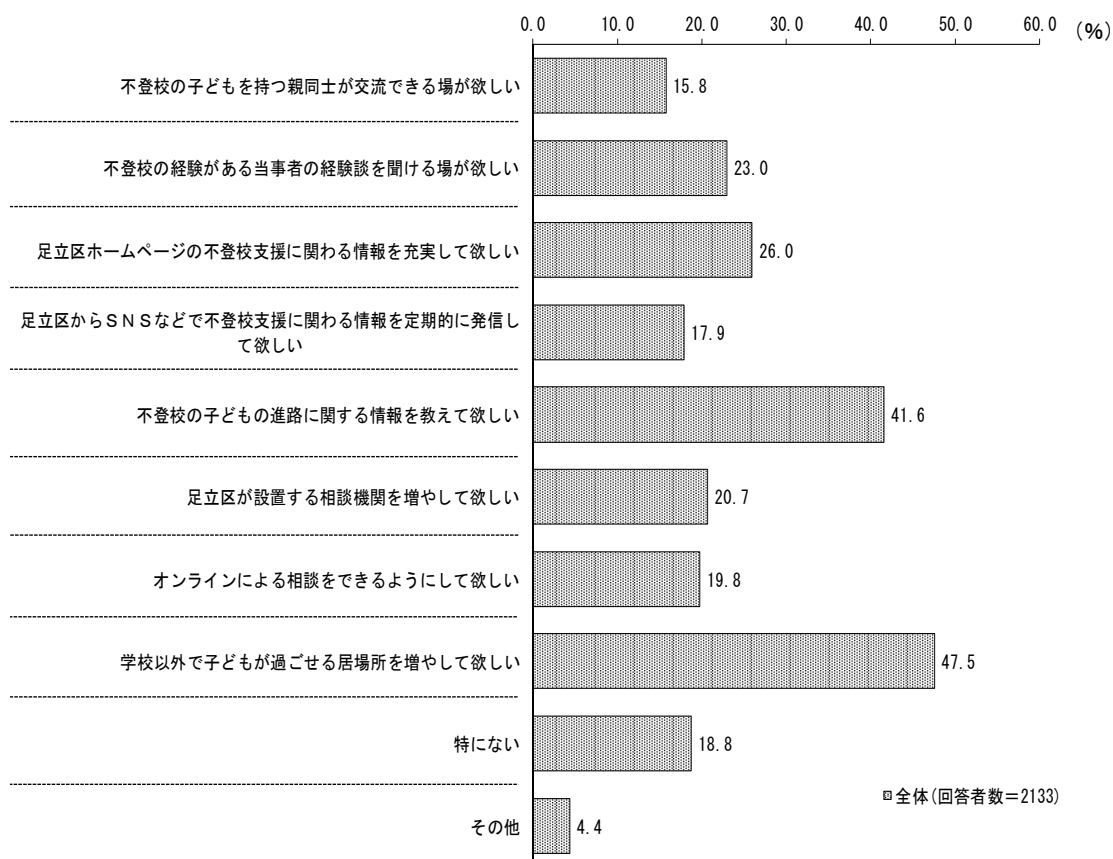
また「Q21 お子さんが学校に行けないとき、あなたは学校以外からどのようなサポートがあったらいいと思いますか。」と尋ねたところ、「学校以外で子どもが過ごせる居場所を増やして欲しい」と回答した割合が47.5%と最も高かった。Q20でも「学校内に教室に入りづらい子どもが過ごせる居場所を作ってほしい」と回答した割合が34.7%と3番目に高く、子が学校に行けない時は学習機会と居場所の提供を求めていることがうかがえる。

一方、「Q25 あなたは、お子さんが学校に行く、または、行けるようになった後のサポートはどのようなものが良いですか。」と尋ねたところ「先生から気にかけてほしい、声をかけてほしい」と回答した割合が55.5%と最も高く、「いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい」と回答した割合が40.6%と2番目に高かったため、学校に復帰後は周囲からの情緒的なサポートを求めていることがうかがえる。

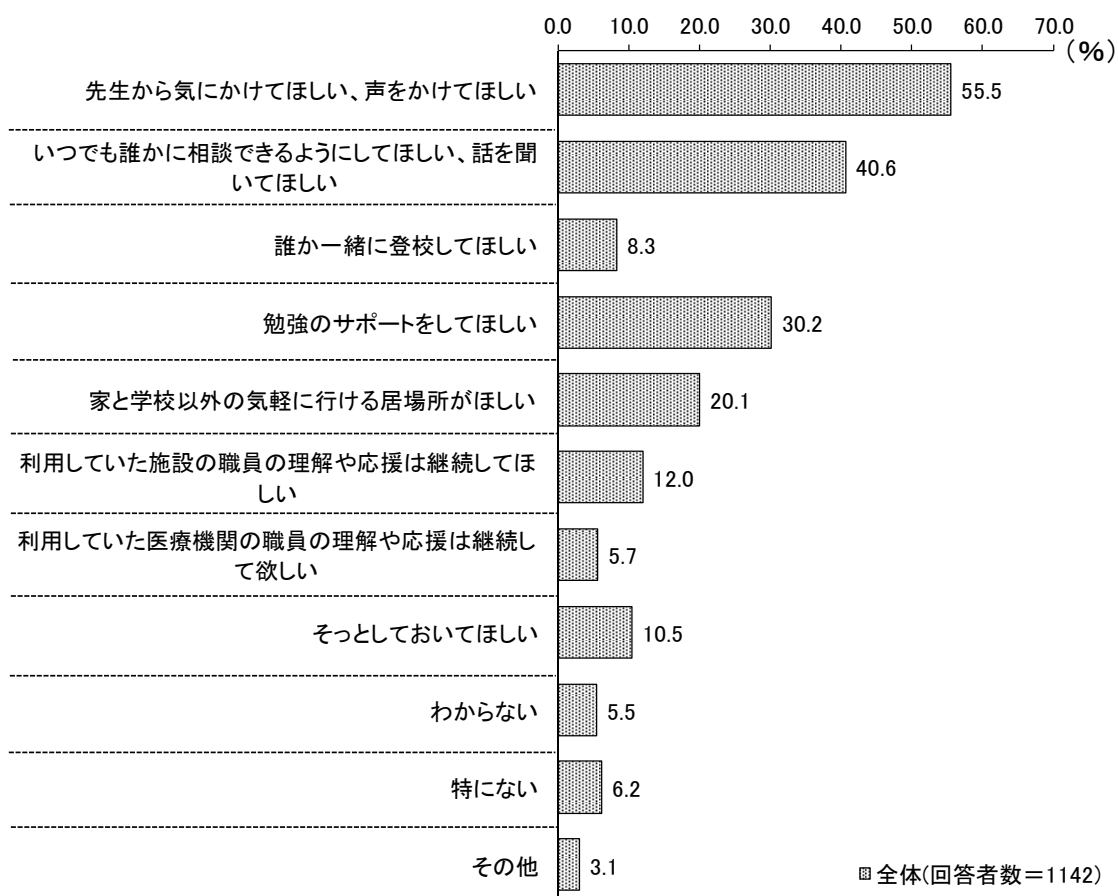
< Q20 子が学校に行けない時、学校から欲しいサポート >



< Q 2 1 子が学校に行けない時、学校以外から欲しいサポート >



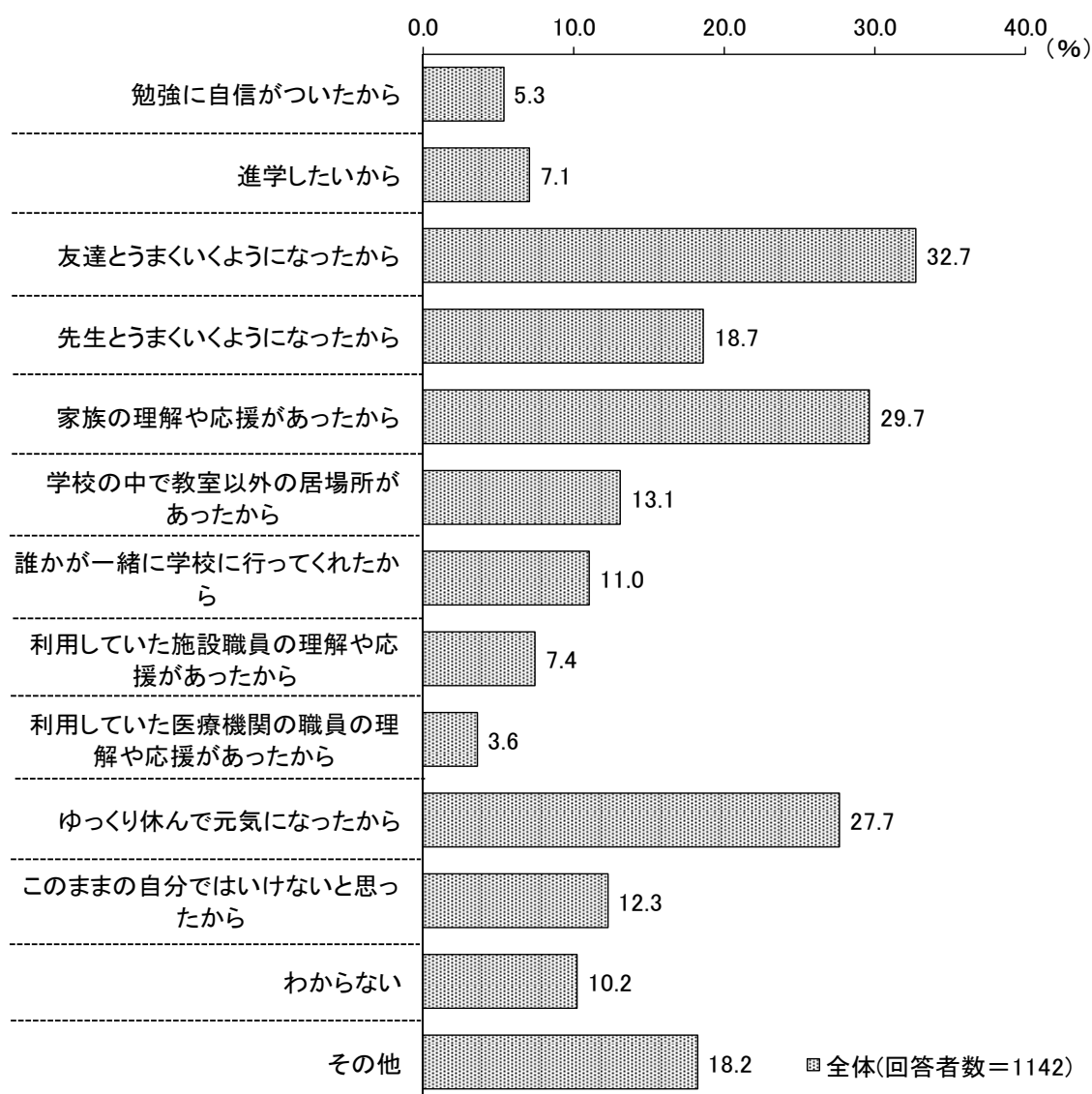
< Q 2 5 子が学校に行く、または、行けるようになった後、欲しいサポート >



(4) 保護者が考える子が学校に行くようになった理由は、友達との人間関係の改善が最も多い。

「Q 2 4 あなたは、お子さんは、なぜ学校に行く、または、行けるようになったと思いますか。」と尋ねたところ、「友達とうまくいくようになったから」と回答した割合が32.7%と最も高く、「家族の理解や応援があったから」と回答した割合が29.7%と2番目に高かった。

＜Q 2 4 子が学校に行く、または、行けるようになった理由と思うもの＞



第 3 章 調査結果の詳細

設問体系と回答の概要<<児童・生徒>>

Q 1 学年（※P4 を参照）

Q 2 学校生活で最も大切にしていること・・・・・・・・・・ P26

- (1) 「友達」 全体 62.1%、低学年 59.6%、高学年 67.3%、中学生 58.6%
- (2) 「勉強」 全体 20.0%、低学年 27.5%、高学年 15.5%、中学生 17.5%

Q 3 (1)～(3) 学校はどのようなところか・・・・・・・・・・ P26

- (1) 「Q 3 (1) 学校は行きたいところ」
全体 73.7%、低学年 80.2%、高学年 71.9%、中学生 69.1%
- (2) 「Q 3 (2) 学校は自分が成長できるところ」
全体 92.1%、低学年 90.9%、高学年 92.3%、中学生 93.0%
- (3) 「Q 3 (3) 学校は安心できるところ」
全体 77.3%、低学年 84.7%、高学年 78.5%、中学生 68.2%
※当てはまると回答した割合

Q 4 自分の将来についてどのように感じているか（高学年、中学生のみ回答）・・・・ P27

- (1) 「楽しみでもあるが、不安でもある」
全体 52.4%、高学年 51.0%、中学生 53.9%
- (2) 「楽しみだ」
全体 20.5%、高学年 24.9%、中学生 15.4%

Q 5 どのような不安か・・・・・・・・・・ P28

- (1) 「勉強ができるようになるか不安」
全体 50.4%、高学年 49.8%、中学生 51.1%
- (2) 「進学が不安」
全体 48.6%、高学年 38.1%、中学生 59.0%

Q 6 学校生活で困ったときに、学校の中で相談したことがある人・・・・・・・・ P29

- (1) 「友達」
全体 69.2%、低学年 62.4%、高学年 71.3%、中学生 73.7%
- (2) 「担任の先生」
全体 52.6%、低学年 66.7%、高学年 51.7%、中学生 38.7%

Q 7 施設やサービスを、1つでも利用していた、または、利用しているか

（高学年、中学生のみ回答）・・・・・・・・・・ P30

- (1) 「利用していた」
全体 8.8%、高学年 10.1%、中学生 7.4%
- (2) 「利用している」
全体 6.2%、高学年 7.4%、中学生 4.7%

Q 8 今、学校に行けているか P31

- (1) 「まったく学校に行けていない」
全体 1.7%、低学年 2.2%、高学年 0.9%、中学生 2.0%
- (2) 「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」
全体 11.4%、低学年 17.1%、高学年 9.7%、中学生 7.2%

Q 9 学校に行けていなかったときがあるか P31

- (1) 「ある」
全体 22.6%、低学年 27.9%、高学年 20.3%、中学生 20.3%

Q 10 (1) 学校を休んでいる期間 P32

- (1) 「だいたい1週間よりも少ないお休み」
全体 42.0%、低学年 63.0%、高学年 42.0%、中学生 17.7%
- (2) 「だいたい6か月以上のお休み」
全体 29.8%、低学年 9.9%、高学年 25.9%、中学生 54.9%

Q 10 (2) 学校に行けていないとき、休んでいた期間 P32

- (1) 「だいたい1週間よりも少ないお休み」
全体 70.1%、低学年 73.0%、高学年 76.3%、中学生 53.3%
- (2) 「だいたい1週間以上1か月よりも、少ないお休み」
全体 18.4%、低学年 16.9%、高学年 15.0%、中学生 27.6%

Q 11、Q 13、Q 15、Q 17、Q 19、Q 21

以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか P33～34

- (1) 「Q 11 学校の過ごしやすさ」
全体 36.8%、低学年 34.2%、高学年 38.8%、中学生 37.3%
- (2) 「Q 13 勉強」
全体 43.4%、低学年 37.4%、高学年 46.5%、中学生 46.1%
- (3) 「Q 15 友達や先生との人間関係」
全体 21.9%、低学年 17.6%、高学年 20.6%、中学生 27.7%
- (4) 「Q 17 家族や家庭環境」
全体 10.4%、低学年 19.1%、高学年 6.6%、中学生 5.9%
- (5) 「Q 19 自分の気持ちや体調」
全体 47.3%、低学年 39.7%、高学年 47.7%、中学生 54.7%
- (6) 「Q 21 その他」
全体 15.5%、低学年 21.8%、高学年 15.1%、中学生 9.6%

Q 1 2 Q 1 1 「学校の過ごしやすさ」が理由で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P35

(1) 「1日の授業の時間が長い」

全体 37.8%、低学年 30.6%、高学年 43.7%、中学生 37.7%

(2) 「学校の宿題が多い」

全体 32.6%、低学年 31.1%、高学年 36.5%、中学生 29.3%

Q 1 4 Q 1 3 「勉強」が理由で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P36

(1) 「苦手な教科があり、授業についていけない」

全体 60.0%、低学年 53.4%、高学年 59.7%、中学生 65.8%

(2) 「テストを受けたくない」

全体 35.3%、低学年 31.1%、高学年 30.6%、中学生 44.4%

Q 1 6 Q 1 5 「友達や先生との人間関係」が理由で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P37

(1) 「友達と上手くいかない、友達に合わせられない」

全体 56.9%、低学年 47.9%、高学年 55.8%、中学生 63.7%

(2) 「先生と上手くいかない、先生に頼れない」

全体 19.5%、低学年 19.5%、高学年 20.9%、中学生 18.2%

Q 1 8 Q 1 7 「家族や家庭環境」が理由で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P38

(1) 「家族や家庭環境が変化した」

全体 34.3%、低学年 41.2%、高学年 24.2%、中学生 24.2%

(2) 「家族と上手くいかない」

全体 34.1%、低学年 24.3%、高学年 39.2%、中学生 60.4%

Q 2 0 Q 1 9 「自分の気持ちや体調」が理由で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P39

(1) 「疲れている、または、疲れやすい」

全体 49.9%、低学年 36.1%、高学年 53.0%、中学生 57.2%

(2) 「何かわからないが不安や気持ちの落ち込みがある」

全体 45.8%、低学年 48.5%、高学年 42.9%、中学生 46.7%

Q 2 2 Q 2 1 「その他の理由」で学校に行きたくないと感じる

具体的な内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P40

- (1) 「学校では自分の興味のあることができない」
全体 42.1%、低学年 42.9%、高学年 40.2%、中学生 43.5%
- (2) 「学校に行かなければならない理由がわからない」
全体 34.7%、低学年 34.7%、高学年 32.4%、中学生 39.0%

Q 2 3 学校に行きたくないときに、助けてほしいこと・・・・・・・・・・ P41

- (1) 「特にない」
全体 27.3%、低学年 18.4%、高学年 30.0%、中学生 33.4%
- (2) 「友達から声をかけてほしい」
全体 25.6%、低学年 30.6%、高学年 26.5%、中学生 19.5%

Q 2 4 学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか・・・・・・・・ P42

- (1) 「行きたいと思う」
全体 37.0%、低学年 45.9%、高学年 36.1%、中学生 29.0%
- (2) 「どちらとも言えない」
全体 23.2%、低学年 18.1%、高学年 25.9%、中学生 25.5%

Q 2 5 最も休みが多かった学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P43

- (1) 「小学1年」
全体 29.7%、低学年 59.6%、高学年 16.1%、中学生 6.9%
- (2) 「小学2年」
全体 20.9%、低学年 33.7%、高学年 18.8%、中学生 6.9%

Q 2 6 学校に行くようになった時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P43

- (1) 「小学1年」
全体 58.9%、低学年 77.8%、高学年 60.4%、中学生 33.0%
- (2) 「小学2年」
全体 9.3%、低学年 15.7%、高学年 7.0%、中学生 3.6%

Q 2 7 学校に行くようになった理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P44

- (1) 「友達と上手くいくようになったから」
全体 41.6%、低学年 49.2%、高学年 45.3%、中学生 27.5%
- (2) 「勉強に自信がついたから」
全体 25.7%、低学年 44.5%、高学年 20.7%、中学生 7.3%

Q 2 8 学校に行くようになった後、欲しいサポート・・・・・・・・・・P45

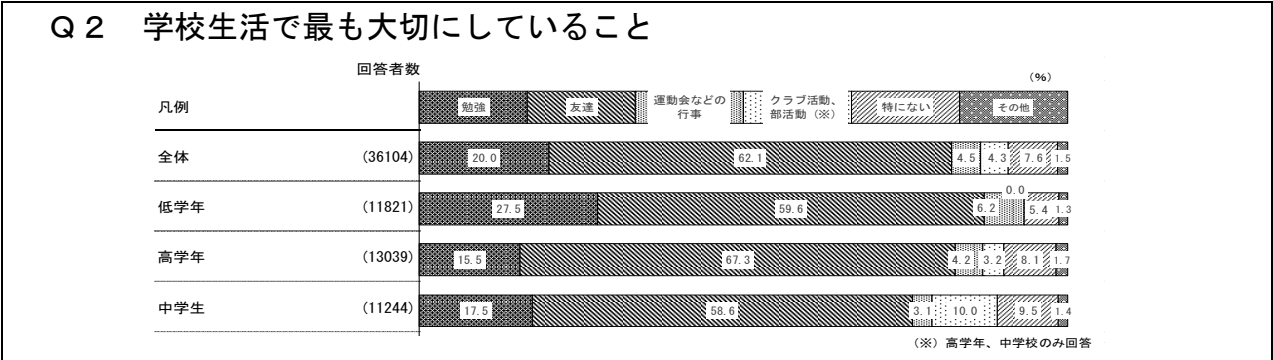
(1)「特にない」

全体 35.9%、低学年 23.3%、高学年 40.2%、中学生 47.2%

(2)「勉強のサポートをしてほしい」

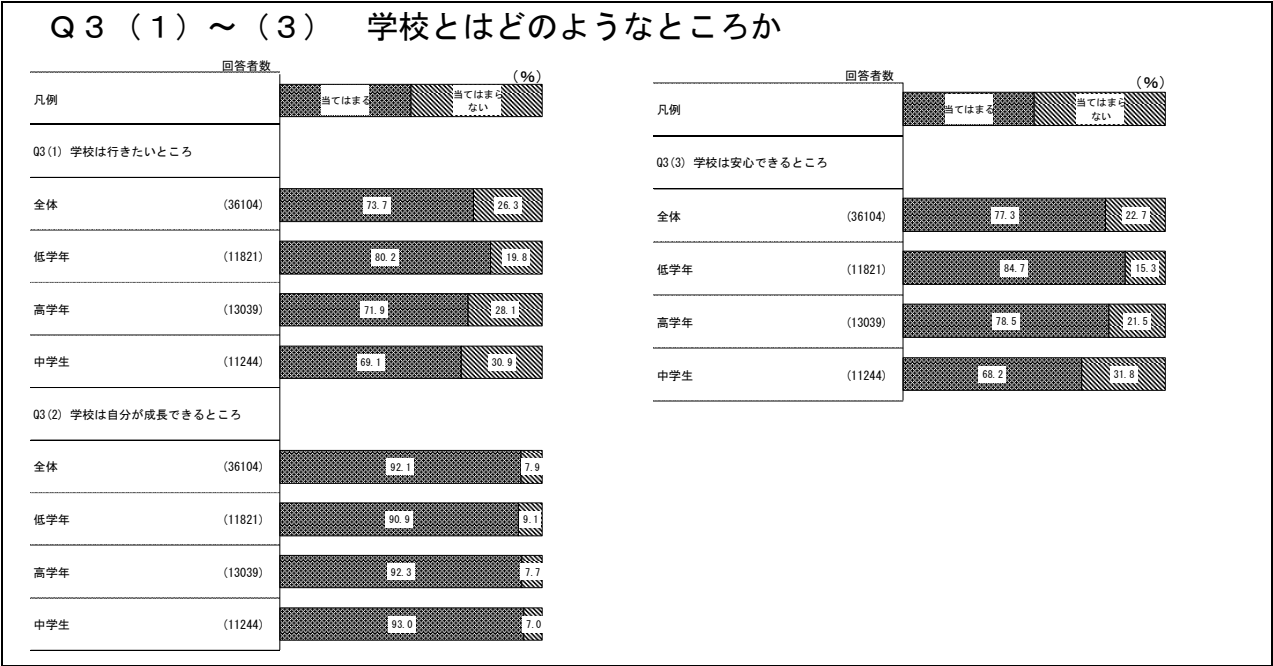
全体 19.1%、低学年 22.3%、高学年 16.8%、中学生 17.8%

Q 2 学校生活で最も大切にしていること



学校生活で最も大切にしていることは、「友達」の回答割合が最も高く、全体で62.1%、低学年が59.6%、高学年が67.3%、中学生が58.6%だった。高学年が低学年と中学生と比較して約10pt程度高く、高学年の児童は特に友達との人間関係を大切にしていることがうかがえる。

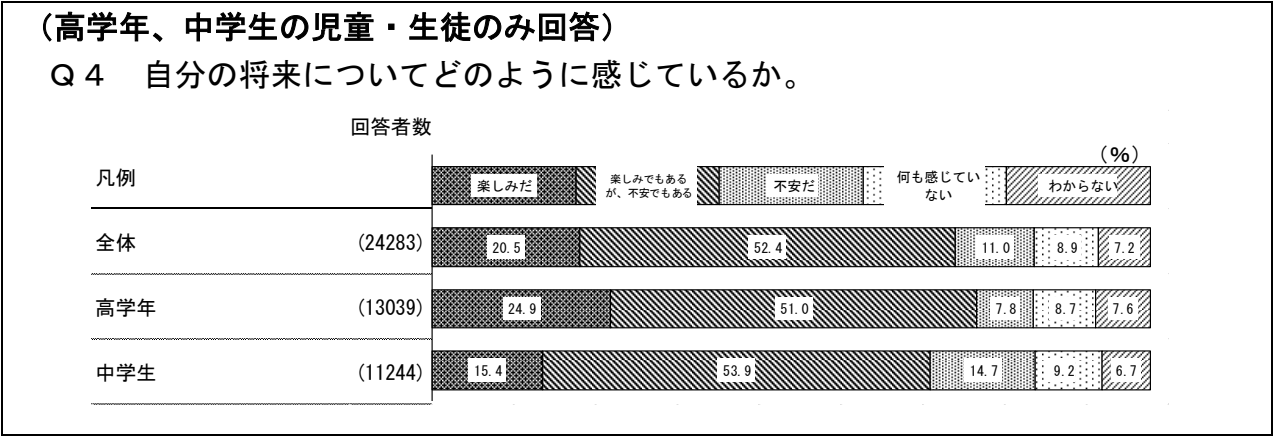
Q 3 (1) ~ (3) 学校はどのようなところか



学校とはどのようなところか「行きたいところ」「自分が成長できるところ」「安心できるところ」について、それぞれ「当てはまる」「当てはまらない」を尋ねた。

「行きたいところ」に「当てはまる」と回答する割合は、低学年が80.2%、高学年が71.9%、中学生が69.1%、「安心できるところ」に「当てはまる」と回答する割合は、低学年が84.7%、高学年が78.5%、中学生が68.2%と、学年があがるほど低くなっていた。一方、「自分が成長できるところ」に「当てはまる」と回答する割合は、低学年が90.9%、高学年が92.3%、中学生が93.0%と学年が上がるほど高くなっていたことから、学年が上がるにつれ、学校は安心でき行きたいところの割合は低くなるが、成長の場であると認識する児童・生徒が多くなることがうかがえる。

Q 4 自分の将来についてどのように感じているか



自分の将来についてどのように感じているか尋ねたところ、「楽しみでもあるが、不安でもある」と回答した割合は全体が 52.4%、高学年が 51.0%、中学生が 53.9%と約半数の児童・生徒が将来について楽しみに感じつつ、不安を感じていた。

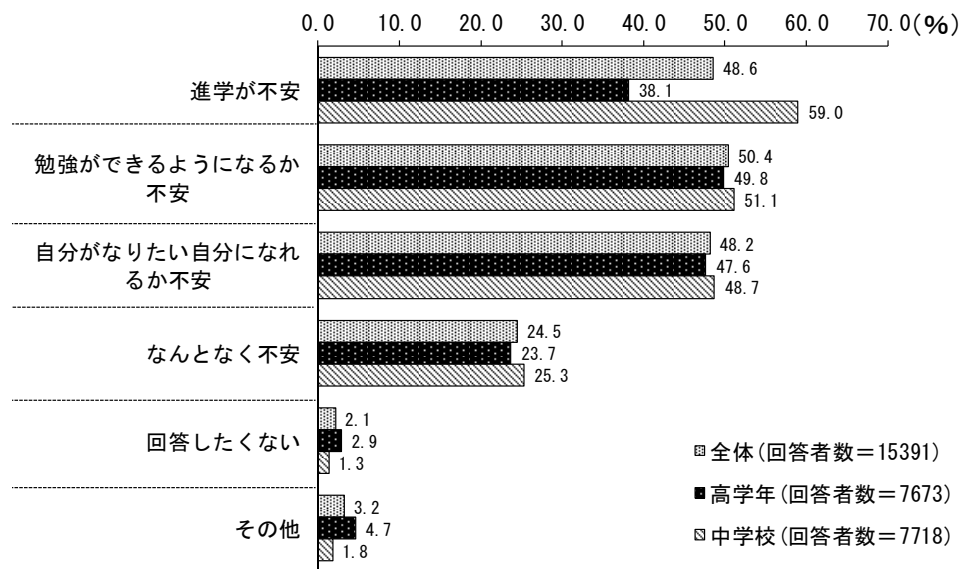
「不安だ」と回答した割合は、全体が 11.0%、高学年が 7.8%、中学生が 14.7%と、中学生が高学年と比較して 7pt 程度高かった。

「楽しみでもあるが、不安でもある」と「不安だ」を合わせると、中学生の約 7 割が不安を感じていた。

Q 5 どのような不安か

(Q 4で「楽しみでもあるが、不安でもある」または「不安だ」と回答した児童・生徒のみ回答)

Q 5 どのような不安か (複数回答)



自分の将来について「楽しみでもあるが、不安でもある」または「不安だ」と回答した児童・生徒に不安の内容について尋ねたところ、全体では「勉強ができるようになるか不安」と回答した割合が50.4%と最も高かった。学年別に見ると高学年は「勉強ができるようになるか不安」が49.8%と最も高く、中学生は「進学が不安」が59.0%と最も高く、高学年と比較して20pt程度高かったことから、中学生は特に進学について不安を感じていることがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「就職・仕事」「家族」が挙げられる。

【就職・仕事】

<高学年>

「仕事に就けるか不安」「バイトとか仕事の面接に受かるのか、仕事がちゃんと覚えられるのか」

<中学生>

「将来の仕事はどのようなことをすればよいのか」「将来どのような仕事についたりしたらいいのかわからなくて不安。」

【家族】

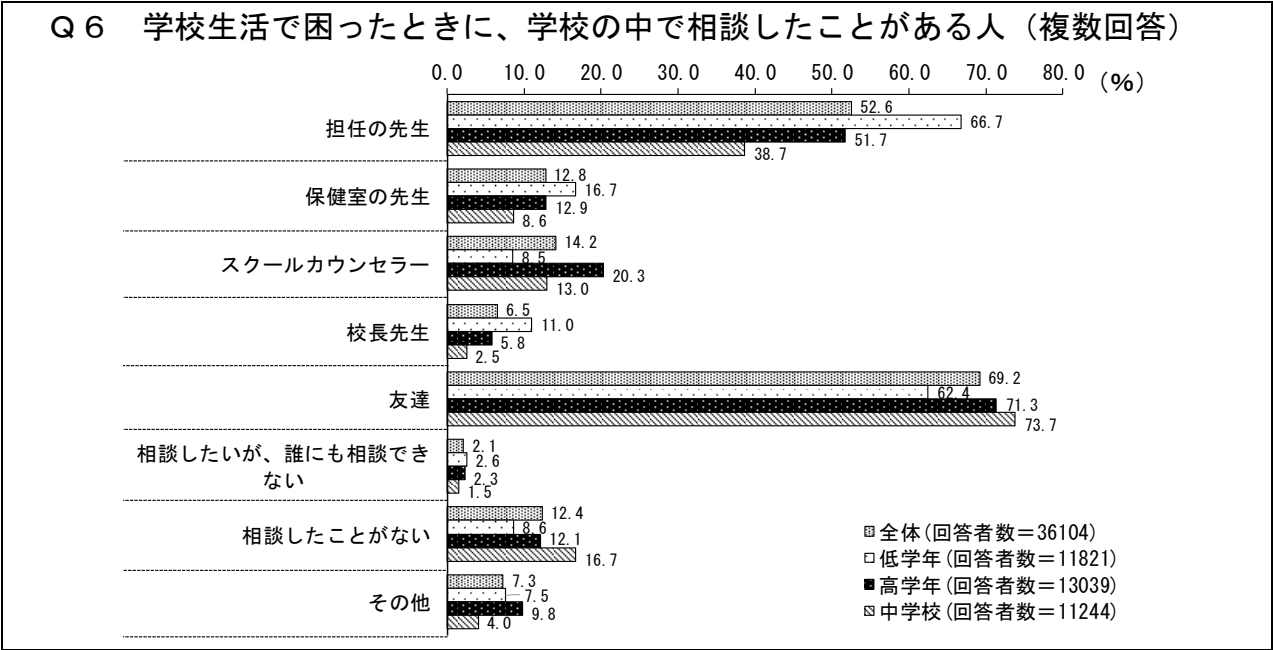
<高学年>

「これから自分が反抗期になって家族を傷つけないかが不安」「家族の年齢的に、何かがあるかもしれない」

<中学生>

「早めに自立したいが親が賛成するかどうか」「家族関係が複雑だ」

Q 6 学校生活で困ったときに、学校の中で相談したことがある人



学校の中で相談したことがある人は、全体では「友達」が69.2%と最も高く、高学年と中学生においては7割以上の児童・生徒が友達に相談をしている。

低学年で最も選択割合が高い「担任の先生」は高学年では51.7%、中学生では38.7%と学年が上がるほど低くなっている。

また、「相談したことがない」の選択割合は低学年が8.6%、高学年が12.1%、中学生が16.7%と学年が上がるほど高くなり、学年が上がるにつれ周囲に助けを求める児童・生徒が少なくなる傾向がうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「担任以外の先生、学内の教職員」が挙げられる。

【担任以外の先生、学内の教職員】

<低学年>

「副校長先生」

<高学年>

「副校長先生」「コミュニケーション教室の先生」

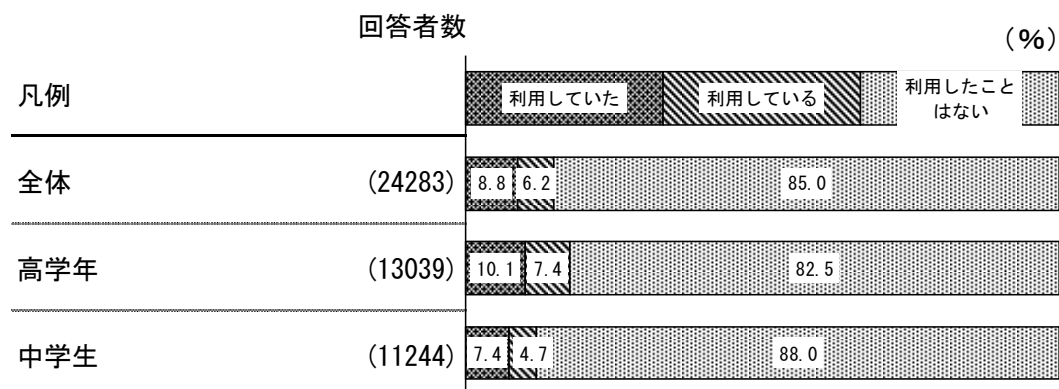
<中学生>

「副校長先生」「特別支援教室の先生」

Q 7 施設やサービスを、1つでも利用していた、または、利用しているか

(高学年、中学生の児童・生徒のみ回答)

Q 7 施設やサービスを、1つでも利用していた、または、利用しているか



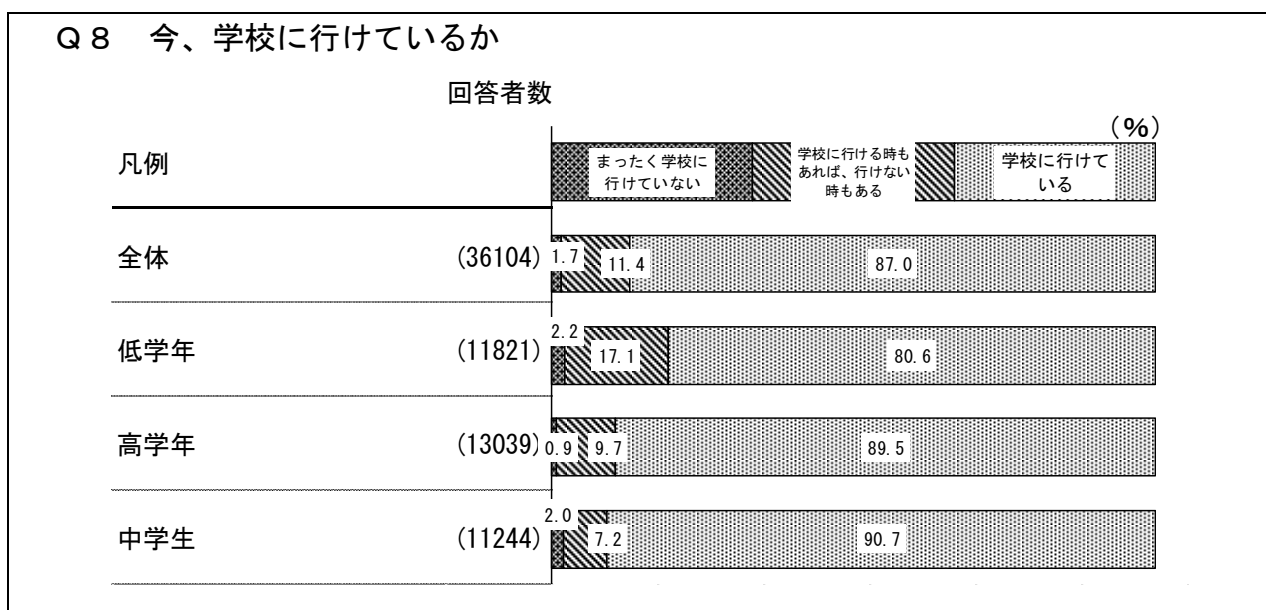
提示した施設・サービス

1	校内の教室以外の居場所（別室登校や SSR（スモール・ステップ・ルーム））
2	こども支援センターげんきでの相談
3	チャレンジ学級
4	あすテップ
5	お迎え支援（登校サポーター）
6	家庭学習支援事業
7	東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）
8	room-k
9	居場所を兼ねた学習支援事業（（アダチベース（カタリバ）、キッズ・ポート（キッズドア））
10	民間のフリースクール

施設やサービスについての利用有無を尋ねたところ、学年問わず「利用したことはない」と回答した割合が8割以上だった。特に中学生は88.0%と最も高く、中学生が施設やサービスにつながりにくいことがうかがえる。

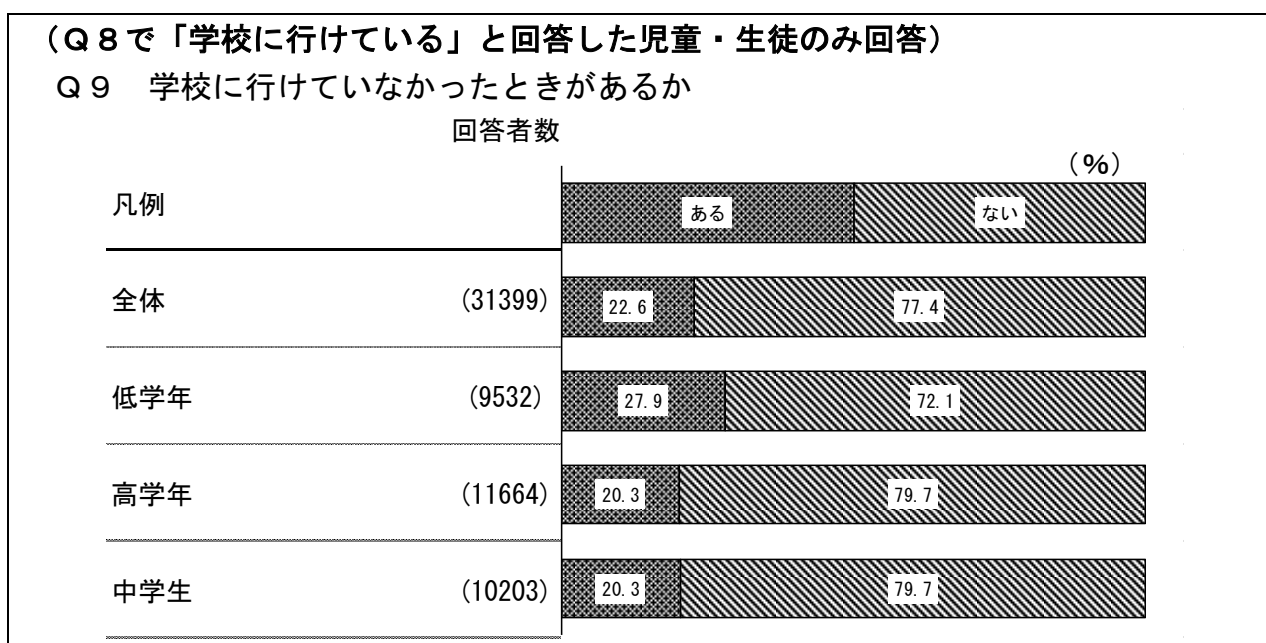
高学年は「利用していた」「利用している」の回答割合を合わせると17.5%になり、低学年、中学生と比較して利用率が高い。

Q 8 今、学校に行けているか



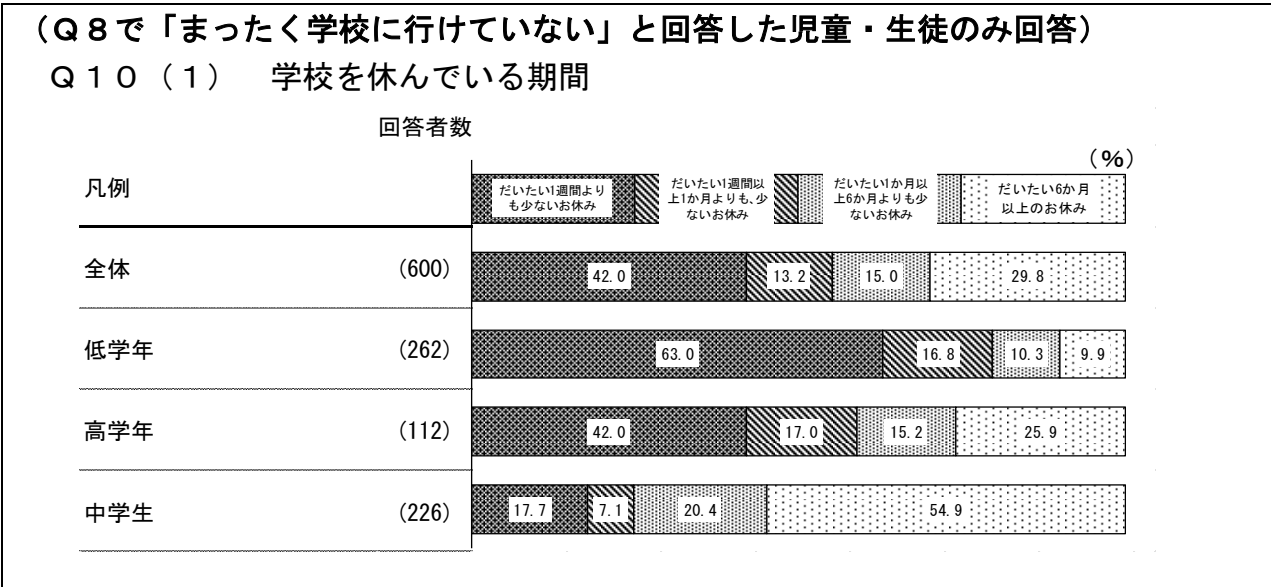
学校への登校状況を尋ねたところ、学年が上がるほど「学校に行けている」の回答割合が高かった。低学年は「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した割合が、高学年、中学生と比較して高く、低学年へのサポートが特に必要であることがうかがえる。

Q 9 学校に行けていなかったときがあるか



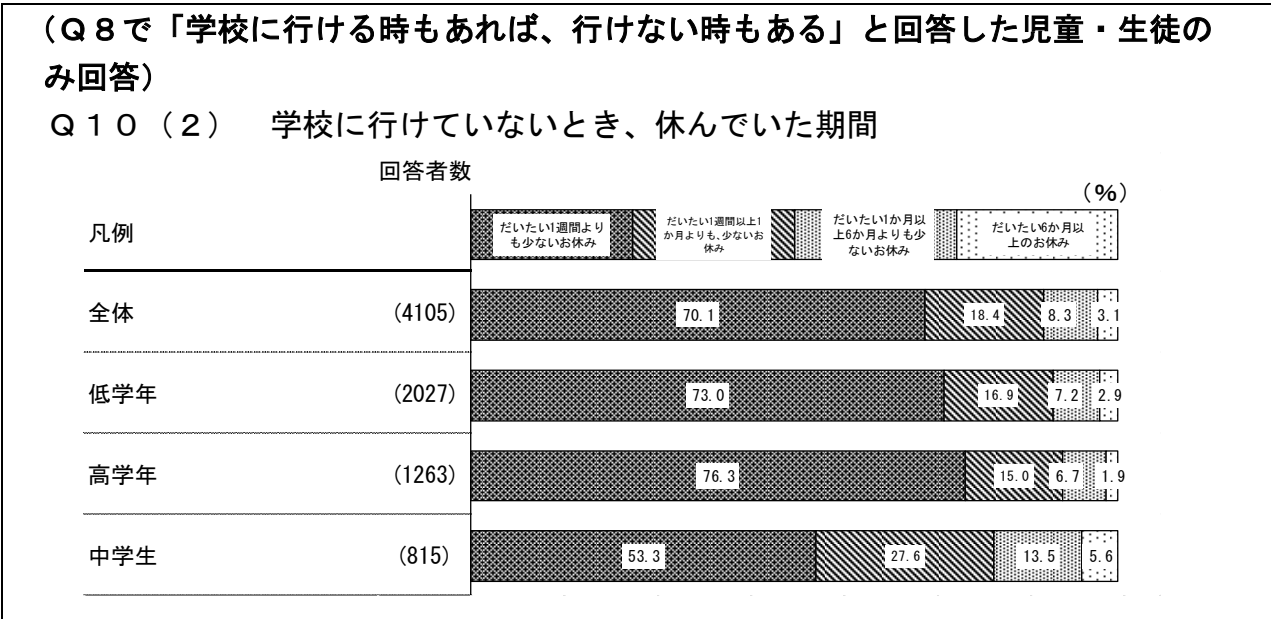
「学校に行けている」と回答した児童・生徒に、学校に行けていなかったときがあるか尋ねたところ、学年問わず「ある」と回答した割合が2割程度だった。低学年は高学年、中学生と比較して7pt程度高い。

Q 1 0 (1) 学校を休んでいる期間



「まったく学校に行けていない」と回答した児童・生徒に学校を休んでいる期間を尋ねたところ、低学年と高学年は「だいたい1週間よりも少ないお休み」でそれぞれ63.0%、42.0%と最も高く、中学生は「だいたい6か月以上のお休み」が54.9%と最も高かった。

Q 1 0 (2) 学校に行けていないとき、休んでいた期間



「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した、児童・生徒に学校に行けていないとき、休んでいた期間を尋ねたところ、「だいたい1週間よりも少ないお休み」と回答した割合が、全体は70.1%、低学年は73.0%、高学年は76.3%、中学生は53.3%と最も高かった。中学生は「だいたい1週間以上1か月よりも、少ないお休み」と回答した割合が全体と比較して9pt程度高く、中学生は学校への復帰に時間がかかっている傾向がうかがえる。

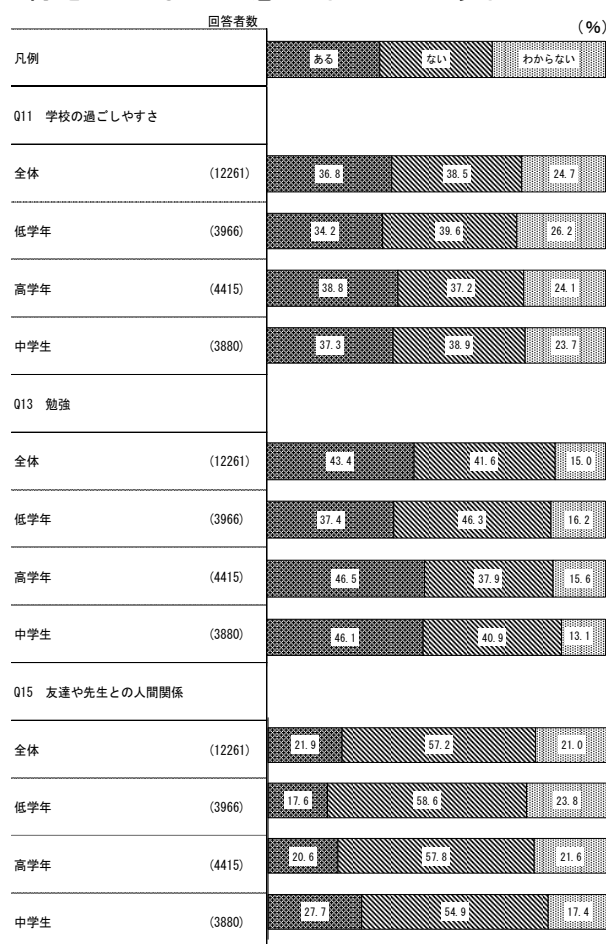
Q11、Q13、Q15

以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか

(Q3(1)で「当てはまらない」と回答した児童・生徒、またはQ8で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した児童・生徒のみ回答)

Q11、Q13、Q15

以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか



Q3(1)で「当てはまらない」と回答、またはQ8で「まったく学校に行けていない」

「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した児童・生徒に、学校に行きたくないと感じる理由について「学校の過ごしやすさ」「勉強」「友達や先生との人間関係」「家族や家庭環境」「気持ちや体調」「その他の理由」それぞれ感じた経験の有無を尋ねた。

「学校の過ごしやすさ」は同程度だが、「勉強」は低学年から高学年・中学生にかけて9pt程度高くなっている。また、「友達や先生との人間関係」は、学年があがるほど「ある」と回答している割合が高くなっており、学年があがるにつれ人間関係の悩みが増えていることがうかがえる。

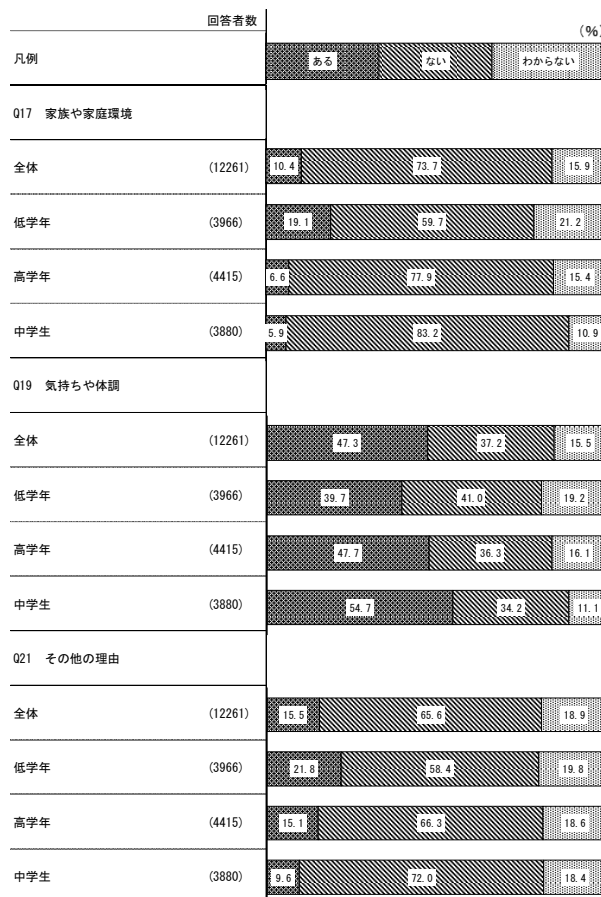
Q17、Q19、Q21

以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか

(Q3(1)で「当てはまらない」と回答した児童・生徒、またはQ8で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もある、行けない時もある」と回答した児童・生徒のみ回答)

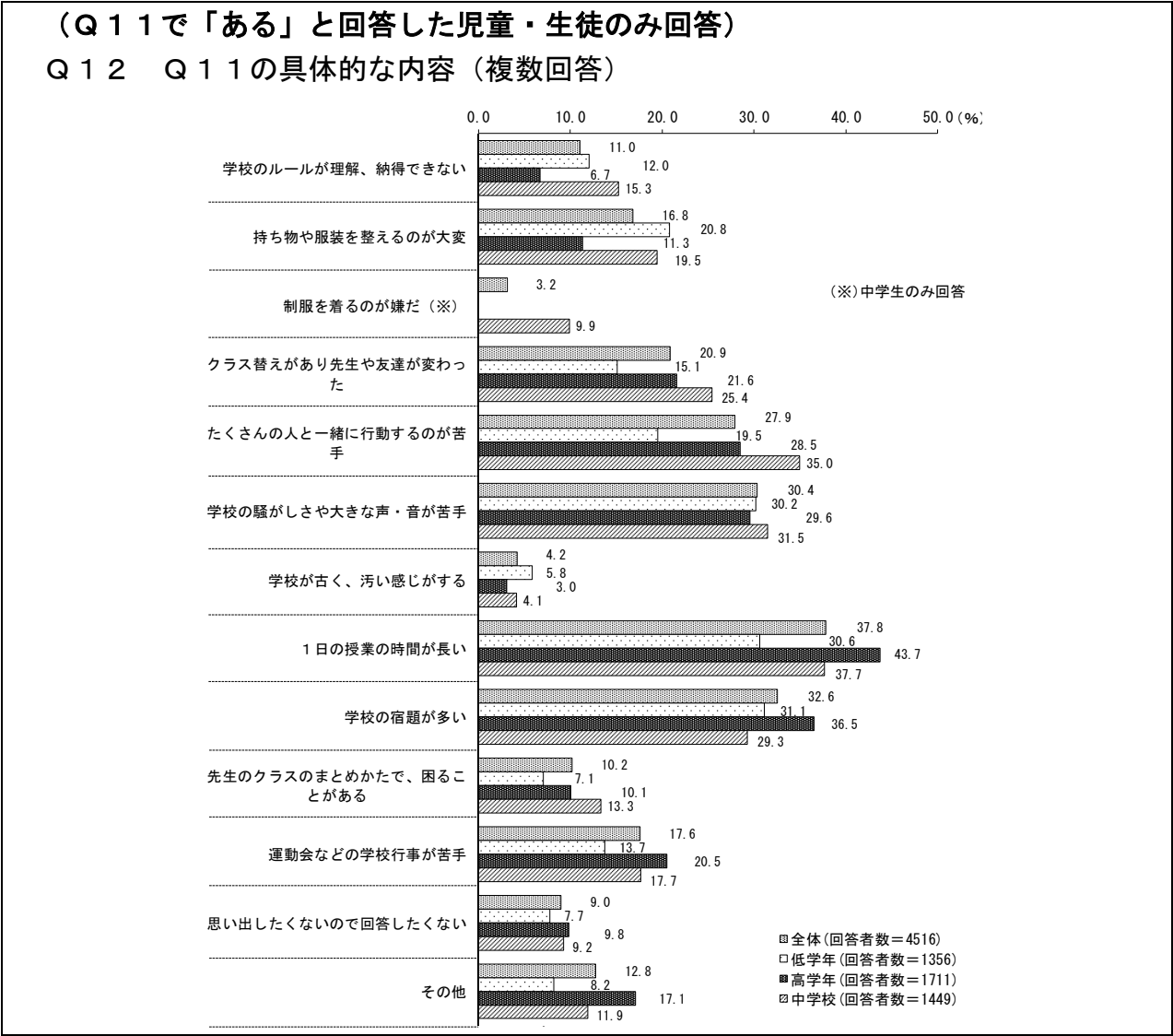
Q17、Q19、Q21

以下の理由で学校に行きたくないと感じることがあるか



「家族や家庭環境」は低学年が全体より 9pt 程度高く、低学年の児童は家庭環境に課題を抱えている傾向があることがうかがえる。「気持ちや体調」を理由に学校に行きたくないと感じたことがあると回答した割合は、6 項目の中で学年問わず最も高かった。

Q 1 2 Q 1 1「学校の過ごしやすさ」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 1 1で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、高学年と中学生において「1日の授業の時間が長い」と回答した割合が最も高く、それぞれ43.7%と37.7%だった。低学年においては「学校の宿題が多い」が最も高く31.1%だった。

中学生は「たくさんの人と一緒に行動するのが苦手」において全体より7pt程度高く、中学生に集団行動が苦手な生徒が多いことがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「空気・雰囲気」が挙げられる。

【空気、雰囲気】

<低学年>

「他のクラスの空気が苦手」「間違ったとき、怒られるのが怖い」

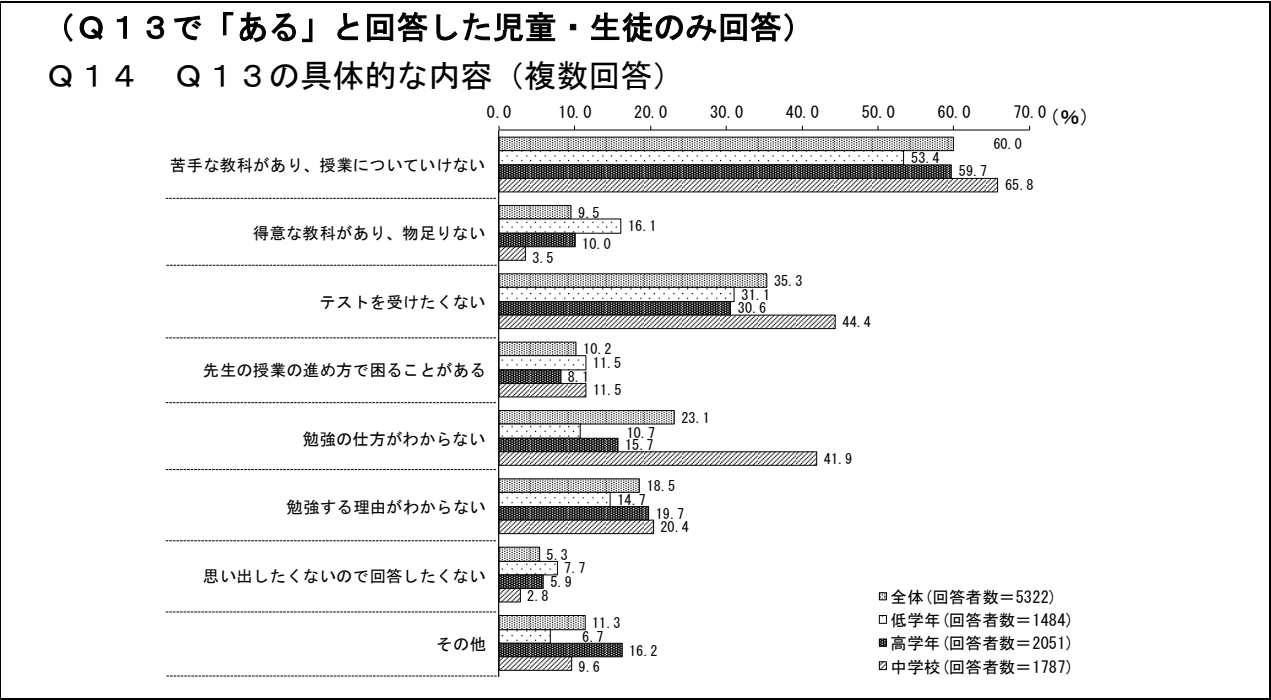
<高学年>

「雰囲気がなぜかきらい」「わけのわからない校則がある」

<中学生>

「クラスの雰囲気が自分に合わない」「空間自体に何か嫌と感じる」

Q 1 4 Q 1 3 「勉強」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 1 4で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、「苦手な教科があり、授業についていけない」が全体は60.0%、低学年は53.4%、高学年は59.7%、中学生は65.8%と最も高かった。低学年においては「得意な教科があり、物足りない」と回答している割合が全体より7pt程度高く、授業の進捗度と児童の習熟度に齟齬があることがうかがえる。また中学生において「勉強の仕方がわからない」と回答した割合が全体より20pt程度高く、勉強方法に課題を感じている生徒が多いことが考えられる。

また、「その他」の内容としては、「めんどくさい、つまらない」が挙げられる。

【めんどくさい、つまらない】

<低学年>

「勉強がめんどくさい」「楽しくない」

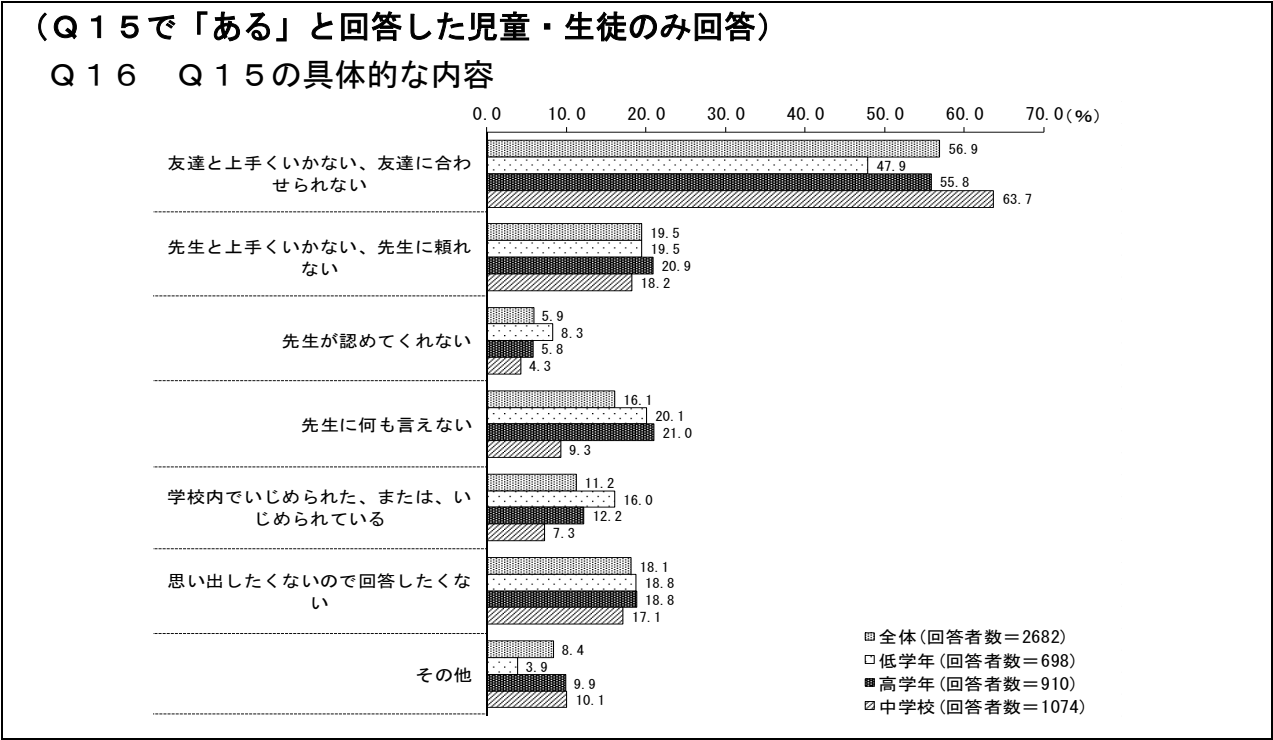
<高学年>

「簡単すぎてつまらない」「勉強はできるが、授業がつまらないから」

<中学生>

「勉強が大変だし、面倒くさい」「授業中に授業をやる意味がないと思ってしまう」

Q 1 6 Q 1 5「友達や先生との人間関係」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 1 5で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、「友達と上手くいかない、友達に合わせられない」と回答した割合が全体は56.9%、低学年は47.9%、高学年は55.8%、中学生は63.7%と最も高かった。特に中学生は全体より6pt程度高いが、

「学校内でいじめられた、または、いじめられている」では全体より4pt程度低いため、いじめほど深刻にはなっていないものの人間関係に課題を感じていることがうかがえる。低学年においては「学校内でいじめられた、または、いじめられている」と回答した割合が全体より5pt程度高く、いじめの発生状況について把握する必要がある。

また、「その他」の内容としては、「子ども同士の人間関係」が挙げられる。

【子ども同士の人間関係】

<低学年>

「学校がうるさすぎて、友だちに注意してもいうことをきいてくれない」

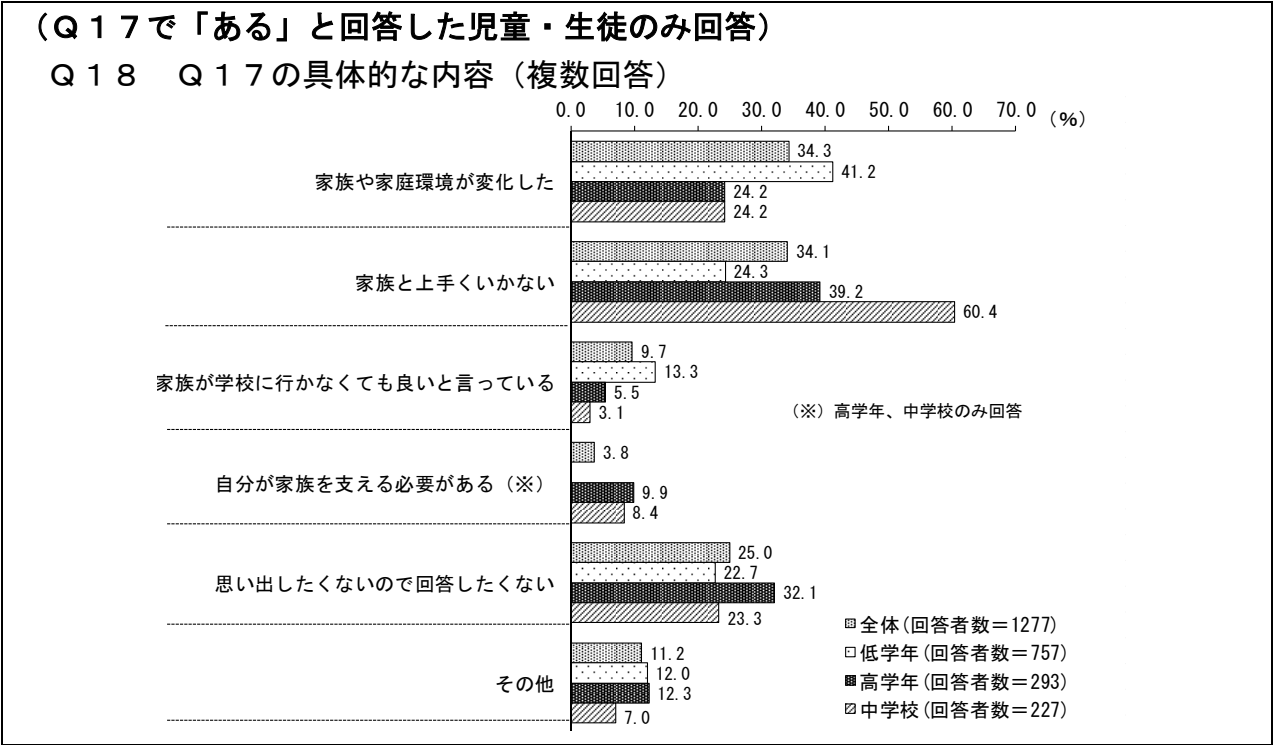
<高学年>

「困ったことがあっても正直に言おうとするけど、説明するのが苦手で誰にも相談したくない、誰か困っていたら助けるけど自分も失敗したら嫌われそうで怖い」

<中学生>

「友達が何でもできて私の居場所がないと感じる」

Q 1 8 Q 1 7 「家族や家庭環境」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 1 7 で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、低学年では「家族や家庭環境が変化した」が 41.2%と最も高く、高学年と中学生では「家族と上手くいかない」が 39.2%、60.4%と最も高かった。特に中学生では「家族と上手くいかない」が全体より 26pt 程度高く、家族との人間関係に課題を感じていることがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「家が楽しい」「家庭の都合」「家族との不仲」が挙げられる。

【家が楽しい】

<低学年>

「家が楽しすぎて学校に行きたくない」「家が落ち着くから」

【家庭の都合】

<高学年>

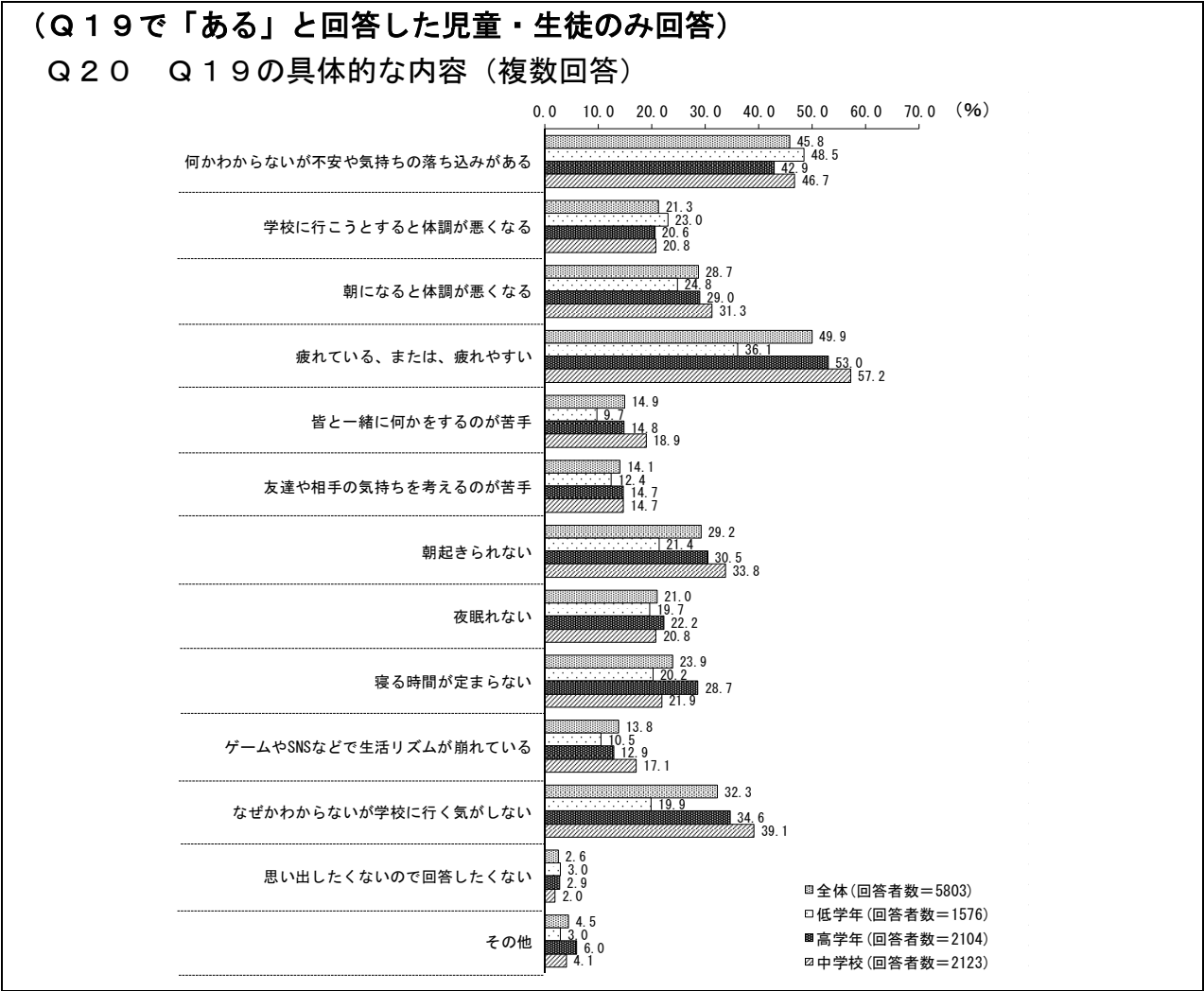
「家族の一人が認知症になり、施設にも入れられないので、目を離すと家を出ていってしまうことがあったり、奇行をするので見ていなければいけない時がある」

【家族との不仲】

<中学生>

「母からの暴力、暴言があるので、体が重い」

Q 2 0 Q 1 9「気持ちや体調」が理由で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 1 9で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、低学年は「何か分からないが不安や気持ちの落ち込みがある」と回答した割合が48.5%と最も高かった。高学年と中学生は「疲れている、または、疲れやすい」と回答した割合が、それぞれ53.0%、57.2%と最も高かった。中学生は全体より 7pt 程度高く、特に疲れを感じている。

また、「その他」の内容としては、「精神不調」が挙げられる。

【精神不調】

<低学年>

「朝、気分が悪くてだるかったりして、学校で熱が出ちゃったらどうしようと心配になっちゃう」

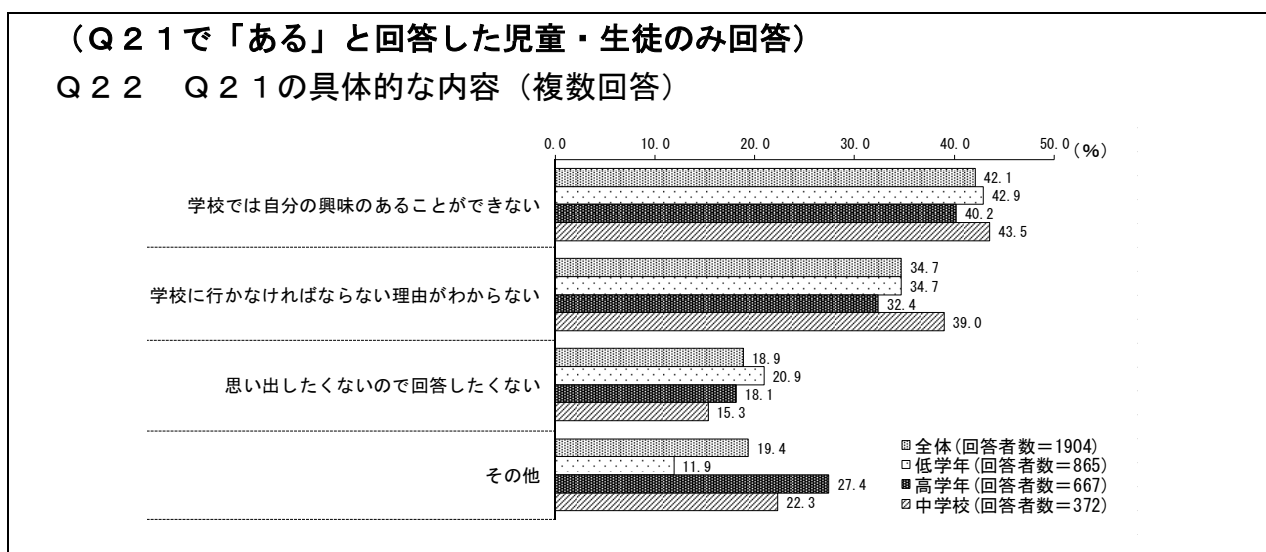
<高学年>

「マイナスなことなどばかり考えちゃう」「行く直前に心が重くなる（ドーンって感じ）」

<中学生>

「緊張や人前に出たり先生と話すときとかに沢山汗をかいてしまうから」

Q 2 2 Q 2 1 「その他の理由」で学校に行きたくないと感じる具体的な内容



Q 2 1で「ある」と回答した児童・生徒に具体的な内容を尋ねたところ、「学校では自分の興味のあることができない」と回答した割合が、全体は 42.1%、低学年は 42.9%、高学年は 40.2%、中学生は 43.5%と最も高かった。「学校に行かなければならない理由がわからない」と回答した割合は、全体が 34.7%、低学年が 34.7%、高学年が 32.4%、中学生が 39.0%だった。中学生は全体より 4pt 程度高く、学校に意味を見いだせていない生徒が比較的多いことがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「他にやりたいことがある、家にいたい」が挙げられる。

【他にやりたいことがある、家にいたい】

<低学年>

「ゲームがしたいから」

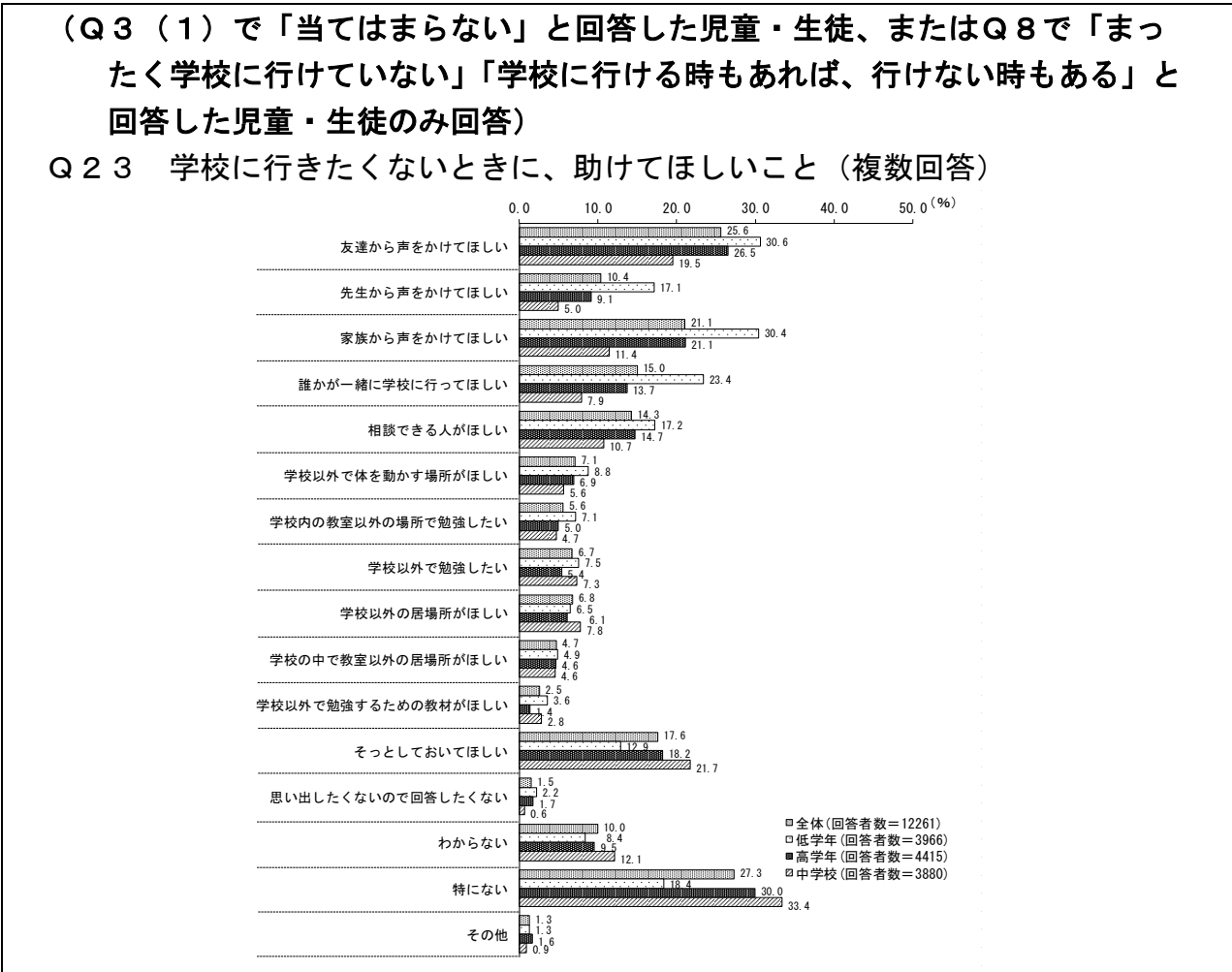
<高学年>

「家にいたほうが楽しい」

<中学生>

「ずっと自分の好きなことをしたい」

Q 2 3 学校に行きたくないときに、助けてほしいこと



Q 3 (1) で「当てはまらない」と回答、またはQ 8で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した児童・生徒に、学校に行きたくない時に助けてほしいことを尋ねたところ、低学年は「友達から声をかけてほしい」と回答した割合が 30.6%と最も高かった。高学年と中学生は「特にない」と回答した割合が、それぞれ 30.0%、33.4%と最も高く、学年が上がるほど周囲からのサポートは求めている一方、低学年は周囲からのサポートを求めている。

また、「その他」の内容としては、「ひとりでいられる場所、静かな場所の提供」が挙げられる。

【ひとりでいられる場所、静かな場所の提供】

<低学年>

「静かな場所が欲しい」

<高学年>

「一人で集中できる場所で勉強したい」

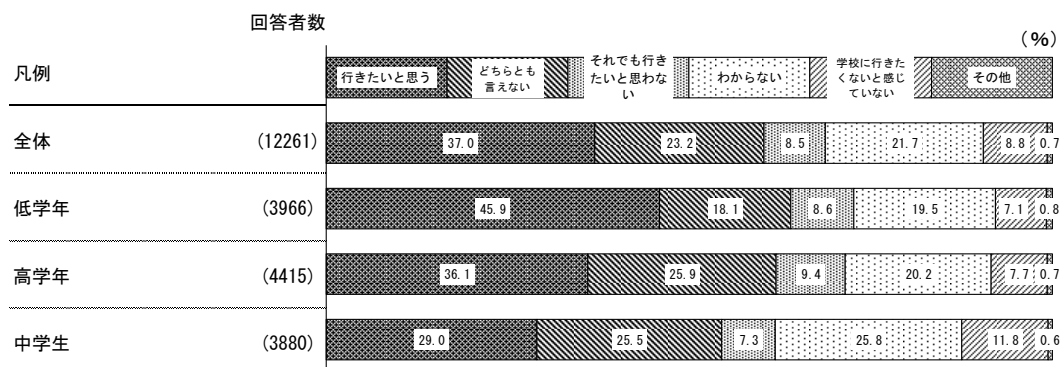
<中学生>

「一人だけでいる時間を作ってほしい」

Q 2 4 学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか

(Q 3 (1) で「当てはまらない」と回答した児童・生徒、またはQ 8で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した児童・生徒のみ回答)

Q 2 4 学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか



Q 3 (1) で「当てはまらない」と回答、またはQ 8で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した児童・生徒に、学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか尋ねたところ、「行きたいと思う」と回答した割合が、全体は37.0%、低学年は45.9%、高学年は36.1%、中学生は29.0%と最も高かった。低学年は全体より9pt程度高く、特に復帰意欲が高い一方、中学生は約3割にとどまっている。

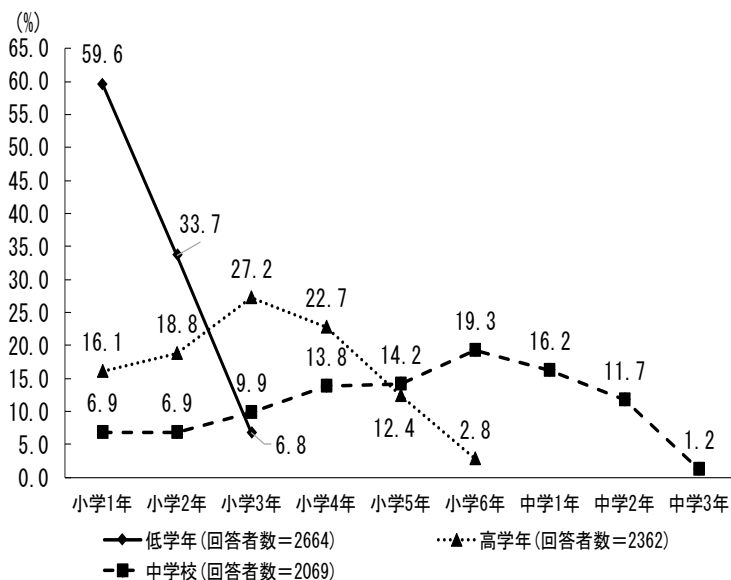
また、「その他」の内容としては、「行きたくないときもある」が挙げられる。

Q 2 5 最も休みが多かった学年

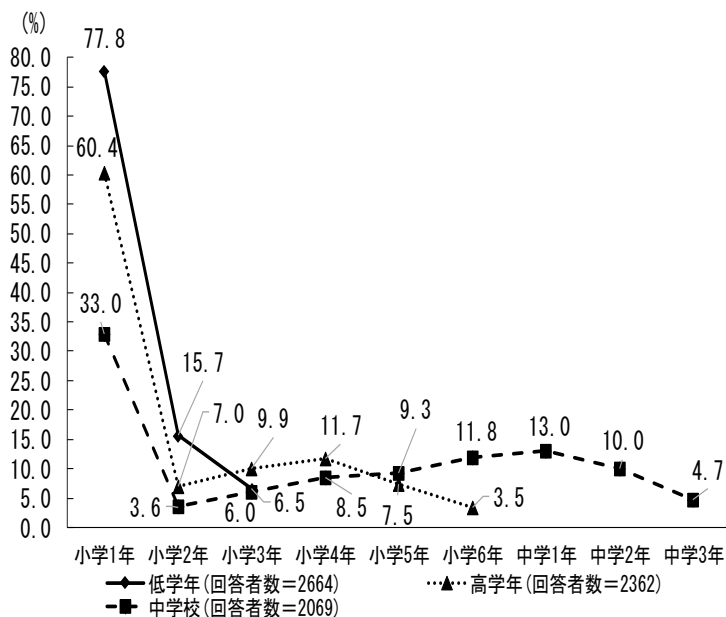
Q 2 6 学校に行くようになった時期

(Q 9で「ある」と回答した児童・生徒のみ回答)

Q 2 5 最も休みが多かった学年



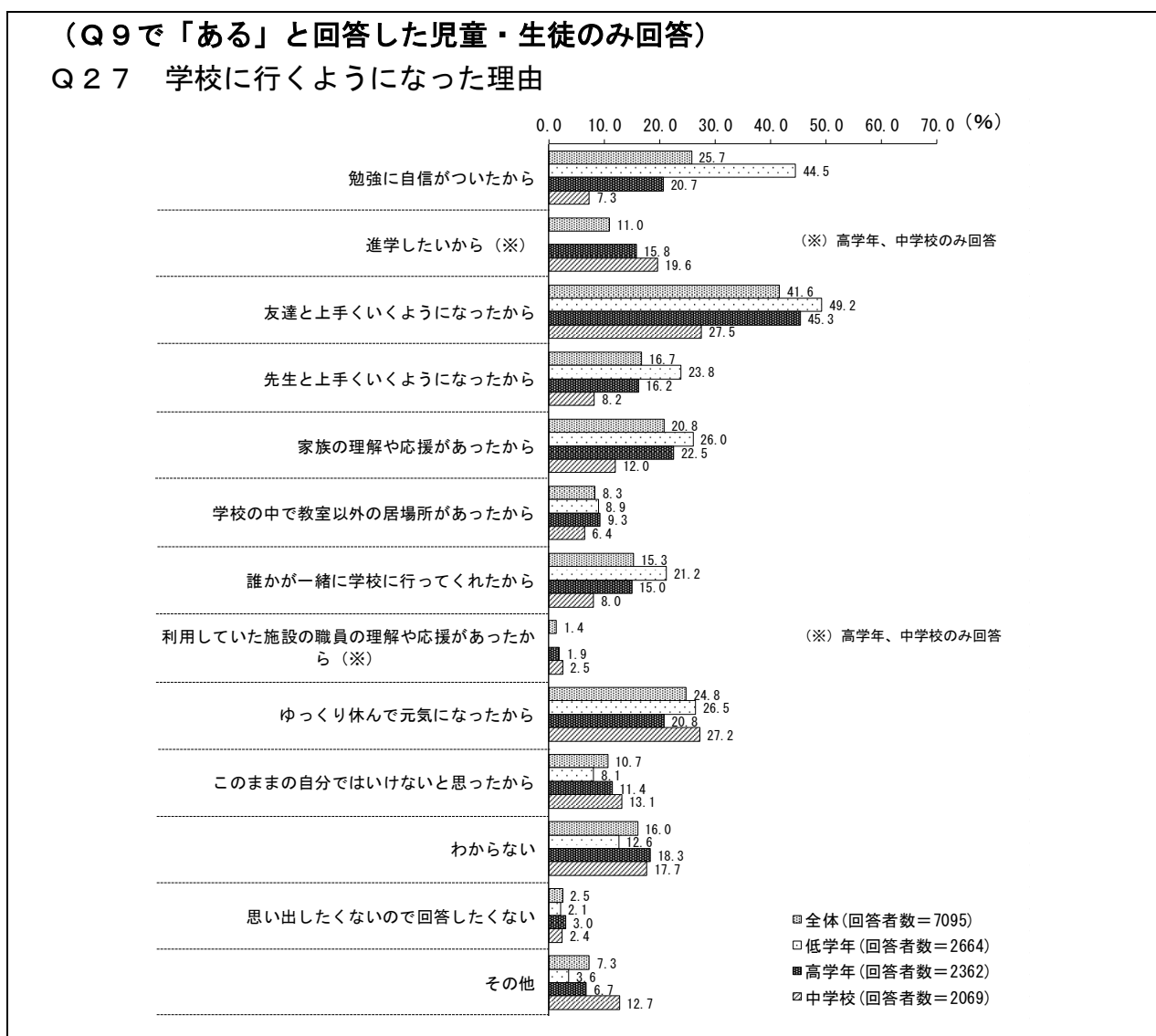
Q 2 6 学校に行くようになった時期



Q 9で「ある」と回答した児童・生徒に、最も休みが多かった学年を尋ねたところ、低学年は「小学1年」と回答した割合が59.6%、高学年は「小学3年」と回答した割合が27.2%、中学生は「小学6年」と回答した割合が19.3%と最も高かった。

また、学校に行くようになった時期を尋ねたところ「小学1年」と回答した割合が、低学年は77.8%、高学年は60.4%、中学生は33.0%と最も高かった。

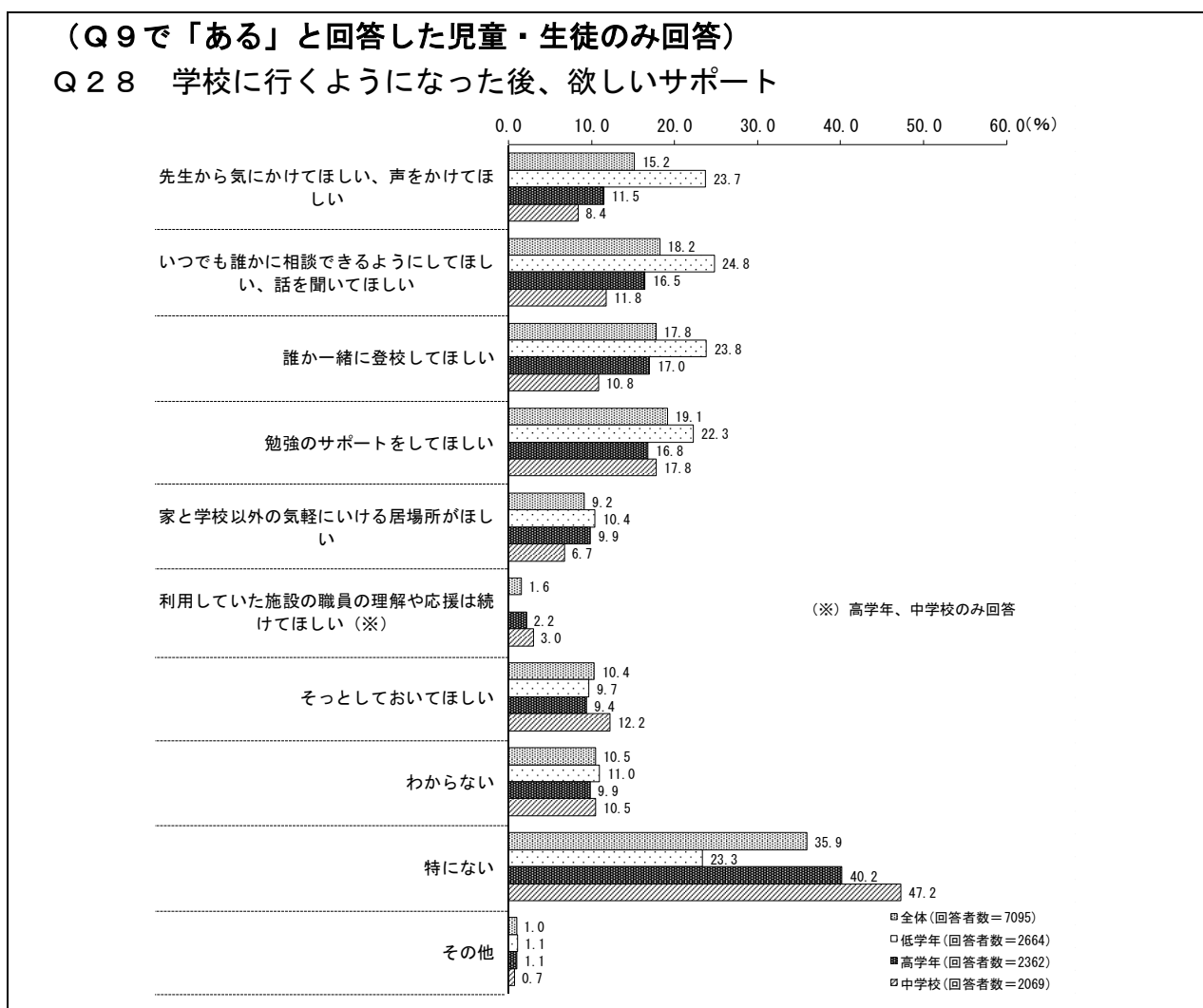
Q27 学校に行くようになった理由



Q9で「ある」と回答した児童・生徒に、学校に行くようになった理由を尋ねたところ「友達と上手くいくようになったから」と回答した割合が、全体は41.6%、低学年は49.2%、高学年は45.3%、中学生は27.5%と最も高かったことから、学年問わず友達との人間関係の改善が不登校解消の重要な一因になることがうかがえる。低学年においては、「勉強に自信がついたから」と回答した割合が約45%あり、勉強の課題の改善によっても登校意欲につながることもうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「学校が楽しそう・楽しかった」が挙げられる。

Q28 学校に行くようになった後、欲しいサポート



Q9で「ある」と回答した児童・生徒に、学校に行くようになった理由を尋ねたところ、低学年は「いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい」と回答した割合が、24.8%と最も高かった。高学年と中学生は「特にない」と回答した割合が、それぞれ 40.2%、47.2%と最も高く、周囲からのサポートを求めていることがうかがえ、Q23の結果と一貫している。

また、「その他」の内容としては、「優しくしてほしい、そばにいてほしい」「相談場所、落ち着ける場所の提供」が挙げられる。

【優しくしてほしい、そばにいてほしい】

<低学年>

「とにかくついてほしい」

<高学年>

「見守ってほしい」

【相談場所、落ち着ける場所の提供】

<中学生>

「少しでも一人でいる時間が欲しい」

設問体系と回答の概要<<保護者>>

Q 1 居住地（※P5 を参照）

Q 2 子の学年（※P6 を参照）

Q 3 子の学校生活で最も大切なこと P49

(1) 「友達」 54.0%

(2) 「勉強」 35.3%

Q 4 (1) ～ (4) 子にとって学校はどのようなところか P50

(1) 「Q 4 (1) 子にとって、学校は将来に必要な学力を身に着けるところ」 88.7%

(2) 「Q 4 (2) 子にとって、学校は多様な経験を得られるところ」 95.9%

(3) 「Q 4 (3) 子にとって、学校は社会ルールやマナーを学ぶところ」 96.4%

(4) 「Q 4 (4) 子にとって、学校は生活リズムを整えるところ」 90.9%

※ 「当てはまる」と回答した割合

Q 5 Q 4 (1) ～ (4) のうち、最も重要だと考えるもの P50

(1) 「多様な経験を得られるところ」 41.1%

(2) 「社会ルールやマナーを学ぶところ」 35.1%

Q 6 子について、悩んでいることがあるか P51

(1) 「ある」 60.8%

Q 7 悩みの内容（Q 6 で「ある」と回答した保護者のみ） P51

(1) 「勉強、学力」 59.2%

(2) 「友達との人間関係」 43.3%

Q 8 子が学校生活で困ったときに、親が学校の中で相談した人 P52

(1) 「担任の先生」 68.4%

(2) 「友達の保護者」 42.0%

Q 9 子は、施設やサービスを、1 つでも利用していた、または利用しているか P53

(1) 「利用していた」 14.6%

(2) 「利用している」 7.6%

Q 10 子が施設やサービスを利用したきっかけ P54

(1) 「担任の先生からの情報提供」 34.6%

(2) 「こども支援センターげんきなど足立区の相談機関からの情報提供」 31.8%

Q 1 1 子は現在、学校に行けているか P54

- (1) 「まったく学校に行けていない」 2.1%
- (2) 「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」 5.8%

Q 1 2 子は学校に行けていなかった時期があるか P55

- (1) 「ある」 9.8%

Q 1 3 (1) 子が学校を休んでいる期間 P55

- (1) 「だいたい6か月以上のお休み」 63.7%
- (2) 「だいたい1か月以上6か月よりも少ないお休み」 23.3%

Q 1 3 (2) 子が学校に行けていないとき、学校を休んでいる期間 P55

- (1) 「だいたい1週間よりも少ないお休み」 49.9%
- (2) 「だいたい1週間以上1か月よりも、少ないお休み」 27.7%

Q 1 4 ~ Q 1 9

以下の理由で子は学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか P56

- (1) 「Q 1 4 学校の過ごしやすさ」 70.8%
- (2) 「Q 1 5 勉強」 51.5%
- (3) 「Q 1 6 友達や先生との人間関係」 60.1%
- (4) 「Q 1 7 家族や家庭環境」 16.1%
- (5) 「Q 1 8 自分の気持ちや体調」 88.0%
- (6) 「Q 2 9 その他」 35.6%

※ 「思う」と回答した割合

Q 2 0 子が学校に行けないとき、学校から欲しいサポート P57

- (1) 「オンライン授業を受けやすくなるようにしてほしい」 43.6%
- (2) 「学校内に教室に入りづらい子どもが過ごせる居場所を作してほしい」 34.7%

Q 2 1 子が学校に行けないとき、学校以外から欲しいサポート P58

- (1) 「学校以外で子どもが過ごせる居場所を増やして欲しい」 47.5%
- (2) 「不登校の子どもの進路に関する情報を教えて欲しい」 41.6%

Q 2 2 子が学校に行く、または行けるようになった時期 P59

- (1) 「小学1年」 31.8%
- (2) 「小学2年」 12.3%

Q 2 3 子が最も休んでいた学年・・・・・・・・・・・・・・・・ P59

- (1) 「小学1年」 27.8%
- (2) 「小学3年」 16.4%

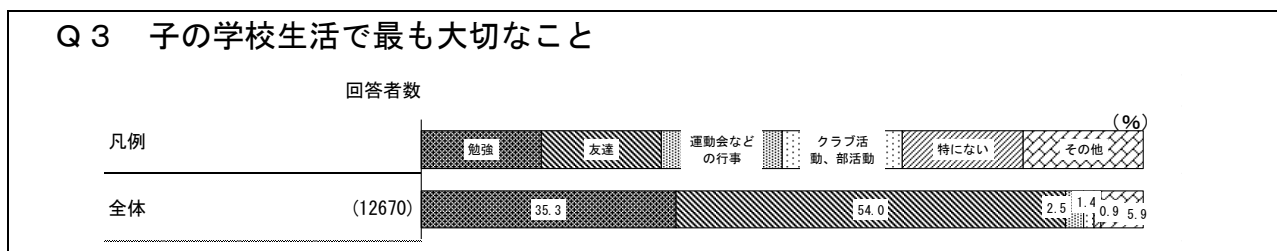
Q 2 4 子が学校に行く、または行けるようになった理由と思うもの・・・・・・・・ P60

- (1) 「友達と上手くいくようになったから」 32.7%
- (2) 「家族の理解や応援があったから」 29.7%

Q 2 5 子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポート・・・・・・・・ P61

- (1) 「先生から気にかけてほしい、声をかけてほしい」 55.5%
- (2) 「いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい」 40.6%

Q 3 子の学校生活で最も大切なこと



子の学校生活で最も大切なことは「友達」と回答した割合が 54.0%と最も高く、「勉強」が 35.3%と 2 番目に高かった。児童・生徒においても、友達と回答した割合が最も高く、勉強が 2 番目に高かったため、児童・生徒と保護者の間で大切にしていることに齟齬がないことが示されている。しかし、児童・生徒では「友達」の回答割合が 6 割以上となっており、保護者より児童・生徒のほうが「友達」を重視している。

また、「その他」の内容としては、「社会性（人間関係、集団性、規範遵守）」「自己理解、人格形成、自己成長」が挙げられる。

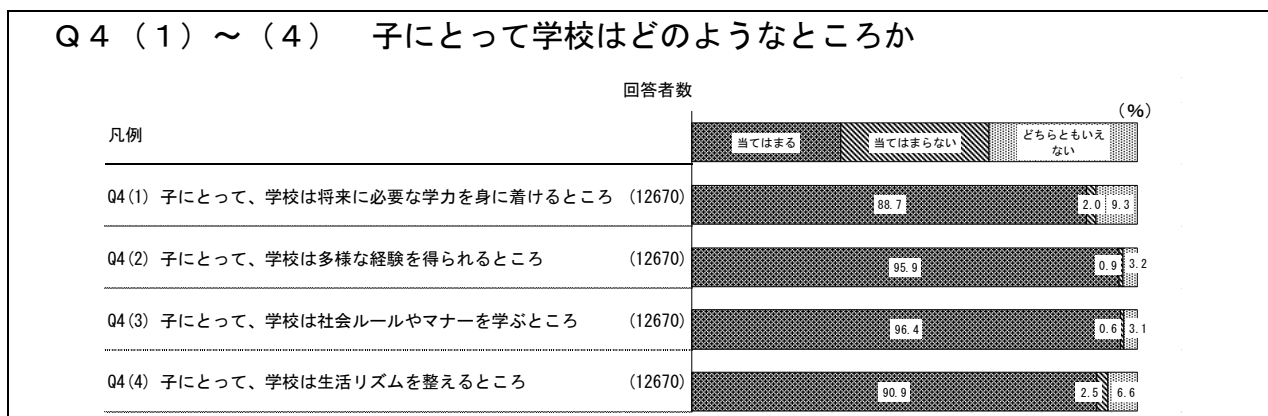
【社会性（人間関係、集団性、規範遵守）】

「社会性を身につける場所」「集団の中での行動、言動を学ぶこと」

【自己理解、人格形成、自己成長】

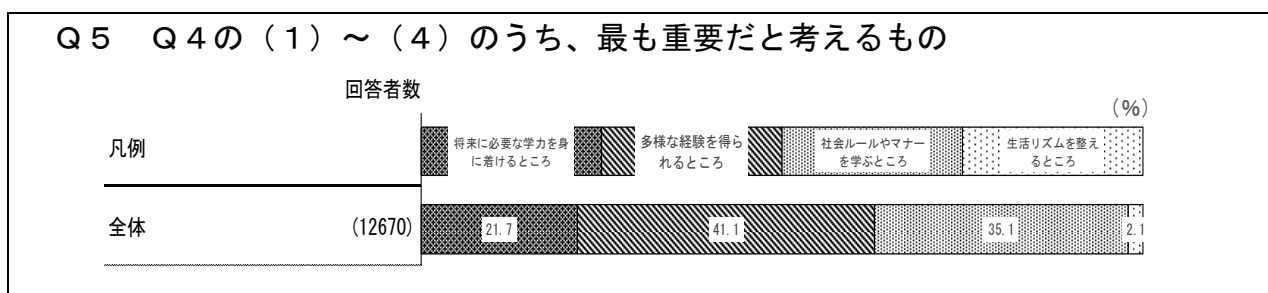
「人としての成長の場」「生きがいや興味を持つ事」

Q4（１）～（４） 子にとって学校はどのようなところか



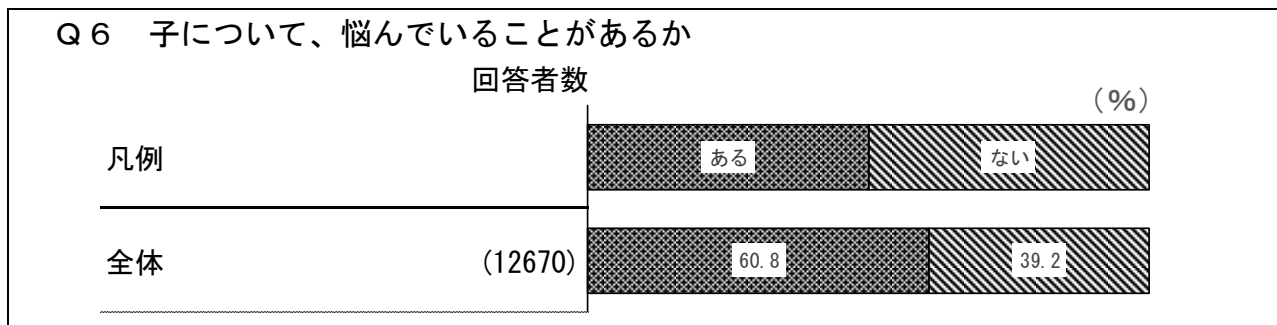
子にとって学校とはどのようなところか、「将来に必要な学力を身に着けるところ」「多様な経験を得られるところ」「社会ルールやマナーを学ぶところ」「生活リズムを整えるところ」に当てはまるかを尋ねたところ、「社会ルールやマナーを学ぶところ」で「当てはまる」と回答した割合が 96.4%と最も高かった。一方で「将来に必要な学力を身に着けるところ」は 88.7%と４つの中で最も低かった。

Q5 Q4の（１）～（４）のうち、最も重要だと考えるもの



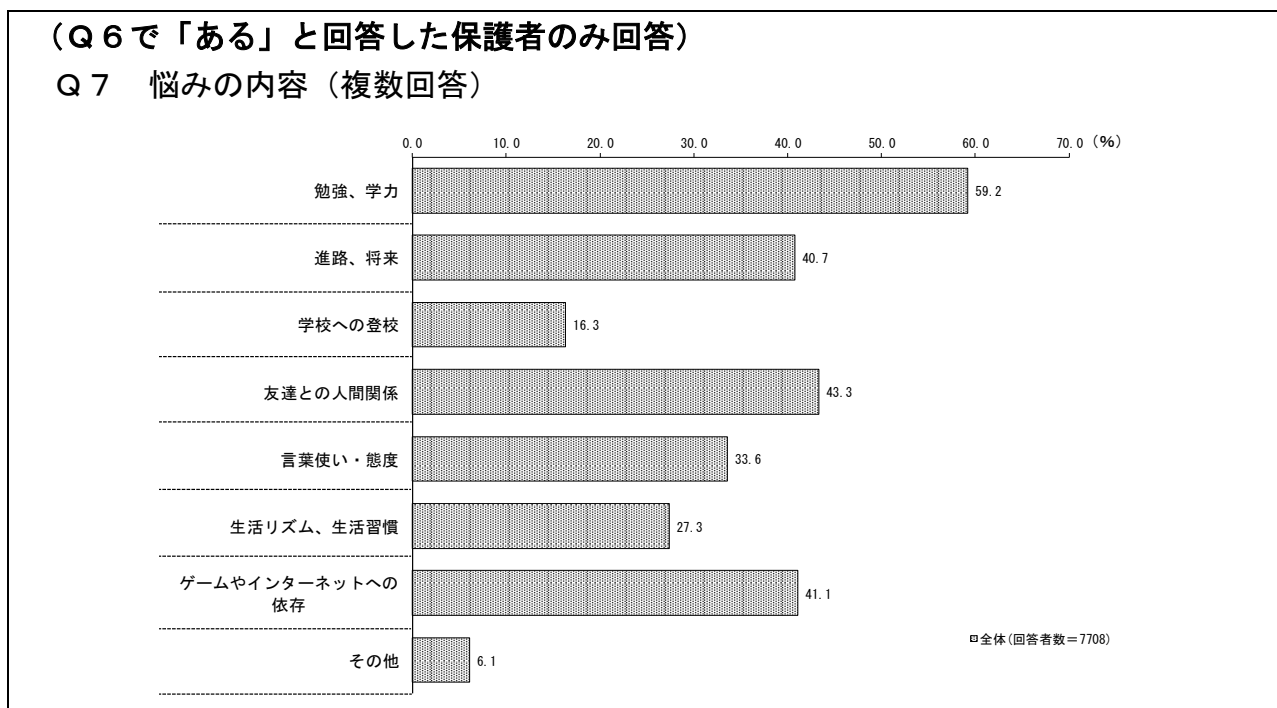
Q4（１）～（４）の中で最も重要だと考えるものを尋ねたところ、「多様な経験を得られるところ」が 41.1%と最も高く、「社会ルールやマナーを学ぶところ」が 35.1%と２番目に高かった。Q3の結果で「友達」が最も高かったことから、保護者は学校生活において勉強よりも社会性や経験を重視していることがうかがえる。

Q 6 子について、悩んでいることがあるか



子についての悩みの有無を尋ねたところ、約 6 割の保護者が「ある」と回答し、半数以上の保護者が悩みを持っていた。

Q 7 悩みの内容



Q 6 で「ある」と回答した保護者に、その悩みの内容を尋ねたところ、「勉強、学力」と回答した割合が 59.2%と最も高く、「友達との人間関係」が 43.3%と 2 番目に高かった。Q 3 から Q 5 の結果と Q 6 の結果をあわせて見ると、子の勉強や学力については最も重視していないものの、課題を感じていることがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「発達課題 (思考力、自己抑制力、計画力)」「社会性、コミュニケーション」が挙げられる。

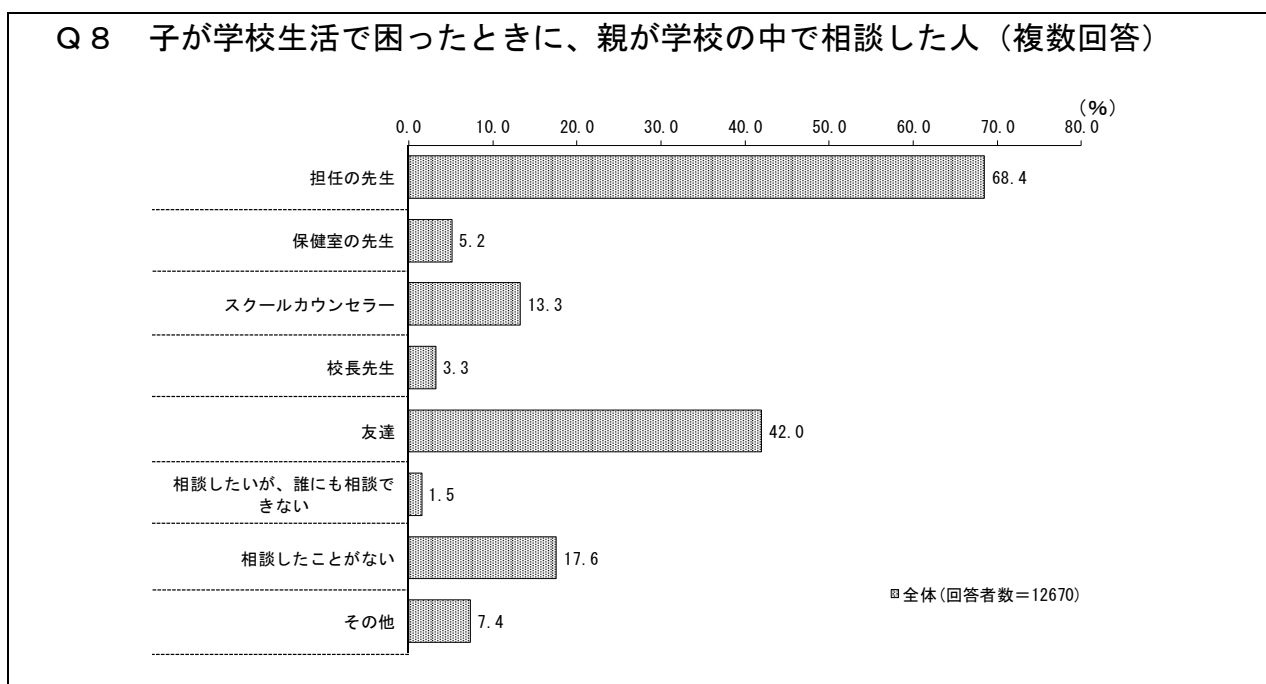
【発達課題 (思考力、自己抑制力、計画力)】

「〇〇をしたらその後どうなるかの先の事を考える力」「やらなければならないことなどの優先度の理解」

【社会性、コミュニケーション】

「困難な人間関係やそのコミュニケーションの機会」「積極性」

Q 8 子が学校生活で困ったときに、親が学校の中で相談した人



子が学校生活で困ったときに、親が学校の中で相談した人を尋ねたところ、「担任の先生」が 68.4%と最も高かった。一方、その他の教職員はいずれも 1 割程度にとどまり、担任教師を中心に相談していることがうかがえる。

また、「相談したことがない」と回答した割合が 17.6%あり、周囲にサポートを求めている保護者もいることが示されている。

また、「その他」の内容としては、「学内の教職員」「相談していない、相談したが無意味だった、相談する気にならない」が挙げられる。

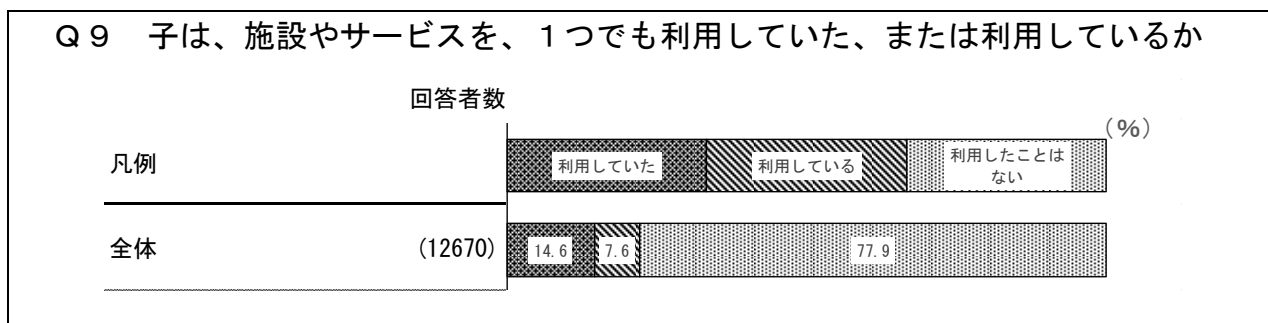
【学内の教職員】

「チャレンジ学級の担当の方」「部活の顧問」

【相談していない、相談したが無意味だった、相談する気にならない】

「相談したが解決には至らなかった」

Q9 子は、施設やサービスを、1つでも利用していた、または利用しているか



提示した施設とサービス ※補足説明として足立区ホームページの URL を記載

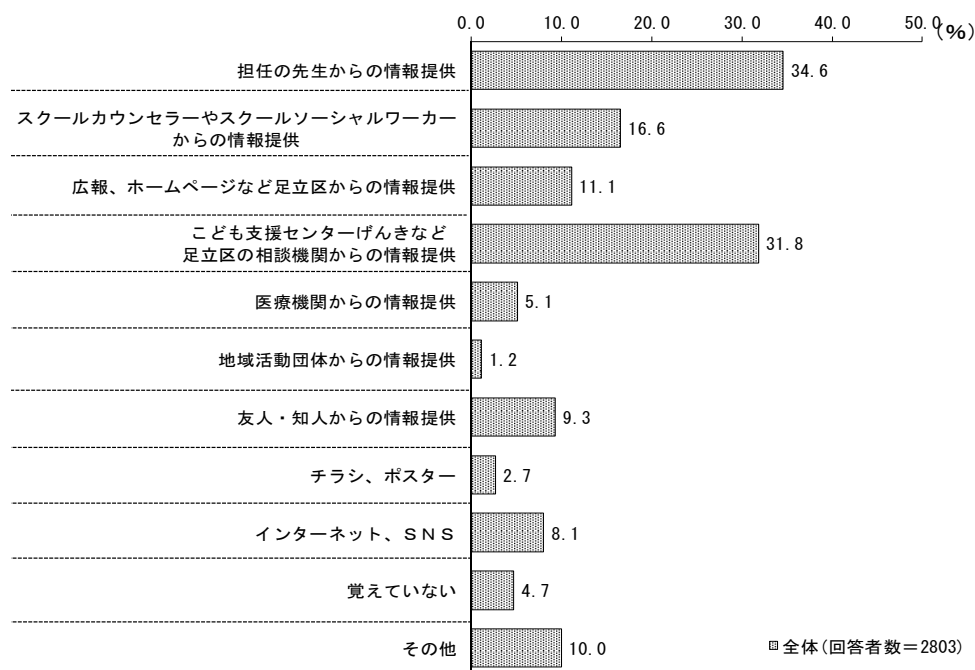
1	校内の教室以外の居場所（別室登校や SSR（スモール・ステップ・ルーム））
2	こども支援センターげんきでの相談
3	チャレンジ学級
4	あすテッポ
5	お迎え支援（登校サポーター）
6	家庭学習支援事業
7	東京都バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）
8	room-k
9	居場所を兼ねた学習支援事業（（アダチベース（カタリバ）、キッズ・ポート（キッズドア））
10	民間のフリースクール

子の施設利用経験有無を尋ねたところ、「利用していた」「利用している」と回答した割合があわせて 22.2%と約 2 割にとどまった。

Q10 子が施設やサービスを利用したきっかけ

(Q9で「利用していた」「利用している」と回答した保護者のみ回答)

Q10 子が施設やサービスを利用したきっかけ(複数回答)



Q9で「利用していた」「利用している」と回答した保護者に、施設やサービスを利用したきっかけを尋ねたところ、「担任の先生からの情報提供」と回答した割合が34.6%と最も高く、「こども支援センターげんきなど足立区の相談機関からの情報提供」が31.8%と2番目に高かった。

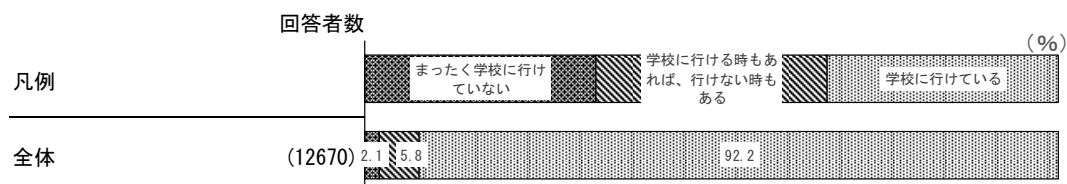
また、「その他」の内容としては、「学内の教職員」「自分で調べた」が挙げられる。

【学内の教職員】

「学校の説明会」「コミュニケーションの教室の先生から」

Q11 子は現在、学校に行けているか

Q11 子は現在、学校に行けているか

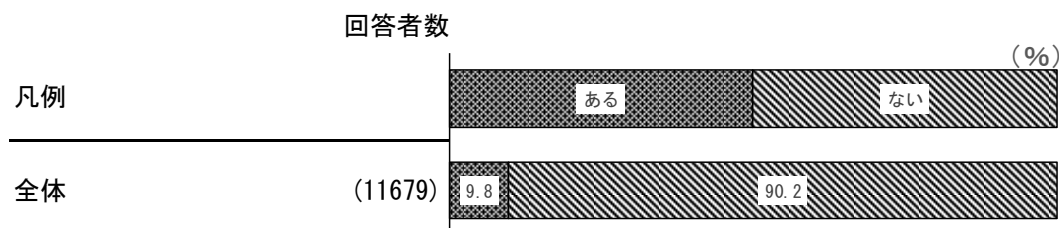


子は現在学校に行けているか尋ねたところ、「まったく学校に行けていない」と回答した割合が2.1%、「学校に行ける時もある、行けない時もある」と回答した割合が5.8%だった。

Q 1 2 子は学校に行けていなかった時期があるか

(Q 1 1で「学校に行けている」と回答した保護者のみ回答)

Q 1 2 子は学校に行けていなかった時期があるか



Q 1 1で「学校に行けている」と回答した保護者に、子は学校に行けていなかったときがあるか尋ねたところ、「ある」と回答した割合が9.8%だった。

Q 1 3 (1) 子が学校を休んでいる期間

(Q 1 1で「まったく学校に行けていない」と回答した保護者のみ回答)

Q 1 3 (1) 子が学校を休んでいる期間

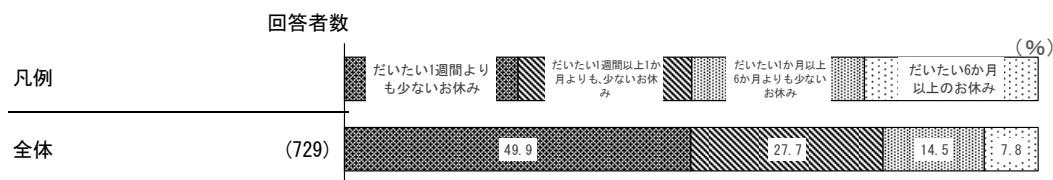


Q 1 1で「まったく学校に行けていない」と回答した保護者に、子が学校を休んでいる期間を尋ねたところ、「だいたい6か月以上のお休み」と回答した割合が63.7%と最も高かった。

Q 1 3 (2) 子が学校に行けていないとき、学校を休んでいる期間

(Q 1 1で「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した保護者のみ回答)

Q 1 3 (2) 子が学校に行けていないとき、学校を休んでいる期間



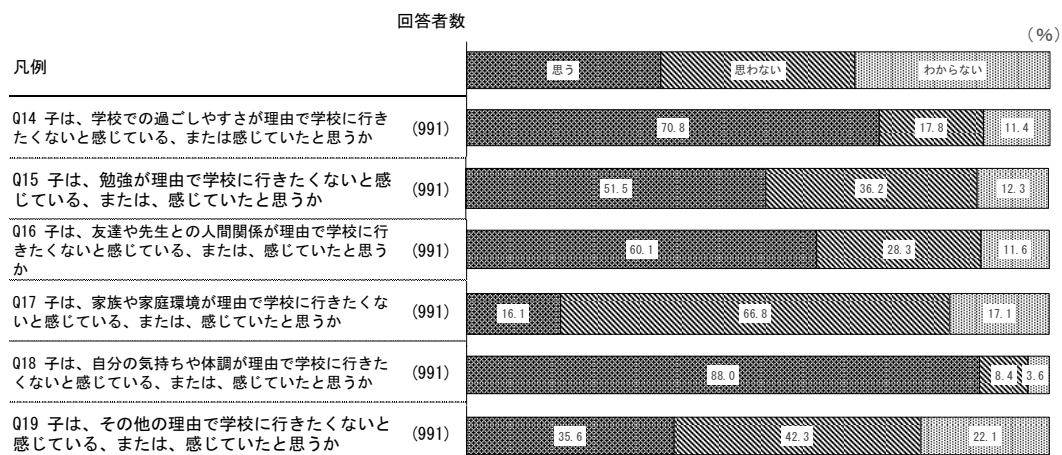
Q 1 1で「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した保護者に、子が学校に行けない時、学校を休んでいる期間を尋ねたところ、「だいたい1週間よりも少ないお休み」と回答した割合が49.9%と最も高い。

Q14～Q19

以下の理由で子は学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか

(Q11で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した保護者のみ回答)

Q14～Q19 以下の理由で子は学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか

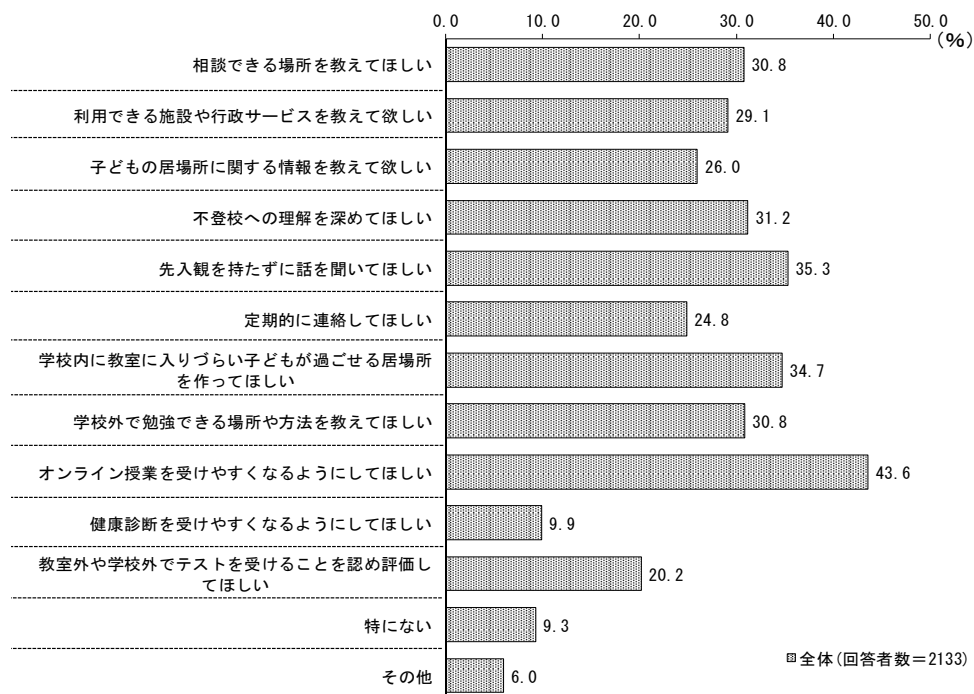


Q11で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」と回答した保護者に、子が学校に行きたくないと感じている、または感じていたと思う理由について尋ねたところ、児童・生徒同様「自分の気持ちや体調」が88.0%と最も高かった。児童・生徒では、「勉強」が2番目だったが、保護者では「学校での過ごしやすさ」が70.8%と2番目に高かった。

Q20 子が学校に行けないとき、学校から欲しいサポート

(Q11で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」または、Q12で「ある」と回答した保護者のみ回答)

Q20 子が学校に行けないとき、学校から欲しいサポート (複数回答)



Q11で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」または、Q12で「ある」と回答した保護者に、子が学校に行けない時、学校から欲しいサポートを尋ねたところ、「オンライン授業を受けやすくなるようにしてほしい」と回答した割合が43.6%と最も高く、「先入観を持たずに話を聞いてほしい」と回答した割合が35.3%と2番目に高かった。このことから、学校には学習機会の提供と情緒的なサポートの両方を求めていることがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「障がい児、発達障がいへの理解、支援」「別室登校の支援、不登校への理解」が挙げられる。

【障がい児、発達障がいへの理解、支援】

「情緒級を作ってもらいたい」「病児の登校サポート」

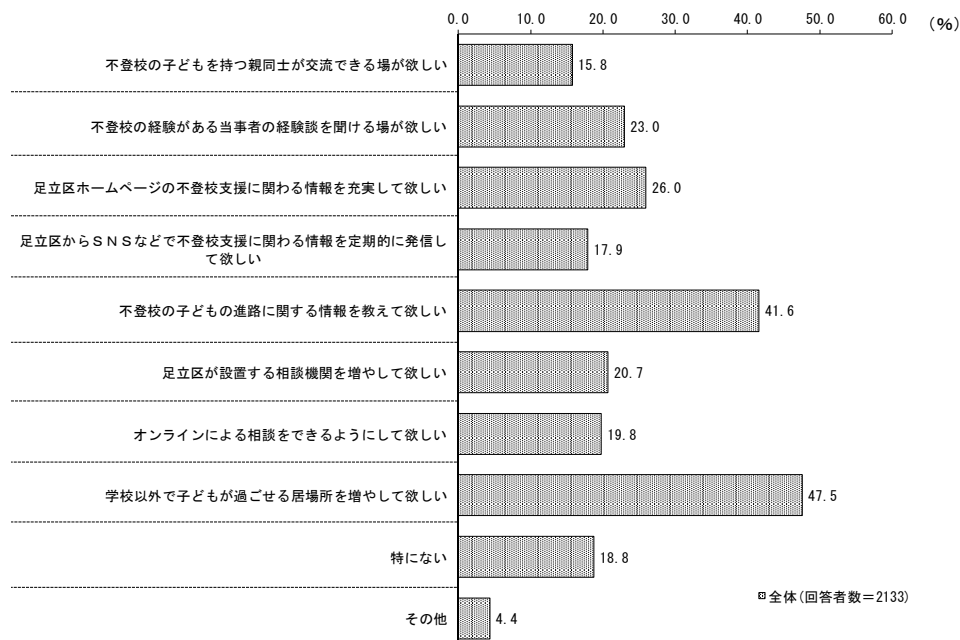
【別室登校の支援、不登校への理解】

「オンライン授業の質の向上」「保健室登校ができる環境を作ってほしかった」

Q 2 1 子が学校に行けないとき、学校以外から欲しいサポート

(Q 1 1で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」または、Q 1 2で「ある」と回答した保護者のみ回答)

Q 2 1 子が学校に行けないとき、学校以外から欲しいサポート (複数回答)



Q 1 1で「まったく学校に行けていない」「学校に行ける時もあれば、行けない時もある」または、Q 1 2で「ある」と回答した保護者に、子が学校に行けない時、学校以外から欲しいサポートを尋ねたところ、「学校以外で子どもが過ごせる居場所を増やして欲しい」と回答した割合が 47.5%と最も高く、「不登校の子どもの進路に関する情報を教えて欲しい」と回答した割合が 41.6%と 2 番目に高かった。このことから学校以外には、子どもへのサポートと保護者へのサポートの両方が求められていることがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「支援施設・サービスの提供、拡充」「登校・施設利用時の柔軟な対応」が挙げられる。

【支援施設・サービスの提供、拡充】

「こども支援センターの相談員の方の対応能力の向上」「原因や相談の目的がはっきりしていなくても「学校に行けていない」をキーワードにして相談できる場があると良い」

【登校・施設利用時の柔軟な対応】

「セキュリティ上仕方ないことですが、どこも低学年は子供 1 人での登室ができないのが不便でした」「遅刻、早退の際、親が送り迎えのサポートをせねばならず、そのたびに仕事を休まなくてはならないのが非常に負担」

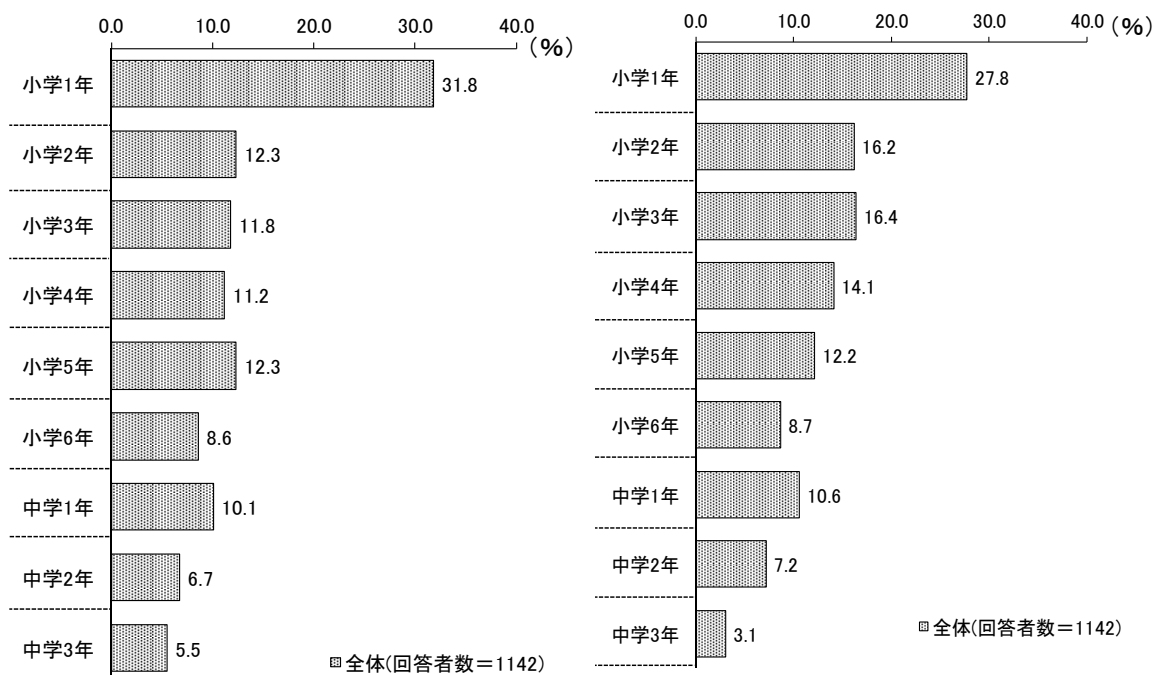
Q 2 2 子が学校に行く、または行けるようになった時期

Q 2 3 子が最も休んでいた学年

(Q 1 2で「ある」と回答した保護者のみ回答)

Q 2 2 子が学校に行く、または行けるようになった時期

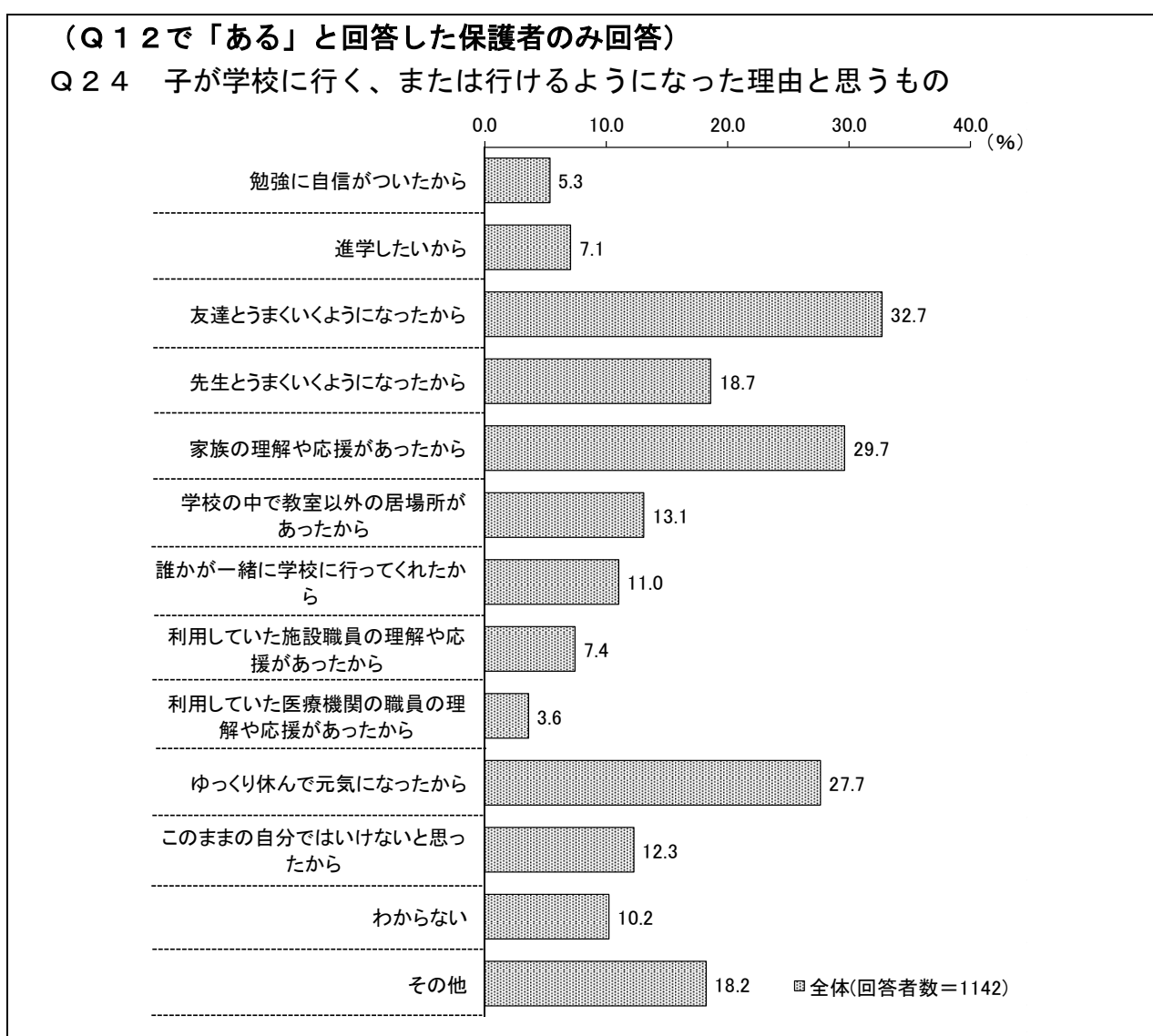
Q 2 3 子が最も休んでいた学年



Q 1 2で「ある」と回答した保護者に、子が学校に行く、または行けるようになった時期について尋ねたところ、「小学1年」と回答した割合が31.8%と最も高かった。

また、子が最も休んでいた学年を尋ねたところ、「小学1年」と回答した割合が27.8%と最も高かった。

Q 2 4 子が学校に行く、または行けるようになった理由と思うもの



Q 1 2で「ある」と回答した保護者に、子が学校に行く、または行けるようになった理由について尋ねたところ、「友達とうまくいくようになったから」と回答した割合が32.7%と最も高く、児童・生徒の結果と一致していた。児童・生徒では「勉強」の選択割合が全体で2番目に高かったが、保護者では「家族の理解や応援があったから」と回答した割合が29.7%と2番目に高く、保護者は勉強の課題の改善が復帰意欲につながっているという認識が児童・生徒と比較して弱いことがうかがえる。

また、「その他」の内容としては、「周囲の支援があった」「子どもが成長した、子ども自身の判断」が挙げられる。

【周囲の支援があった】

「担任やスクールカウンセラーの理解や配慮があったため」

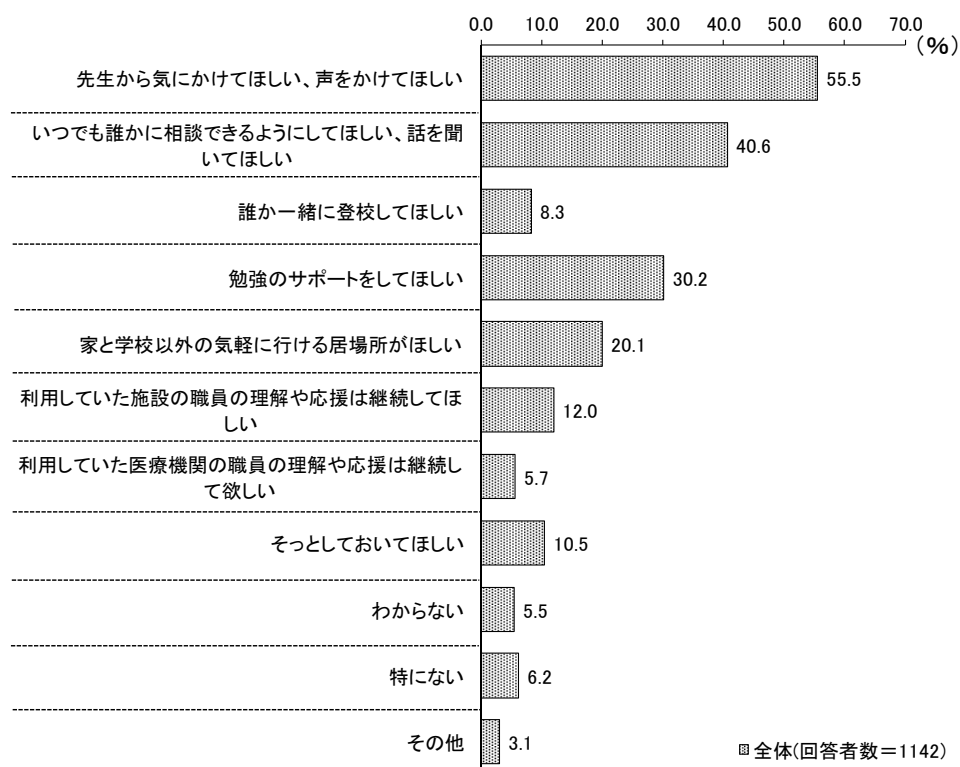
【子どもが成長した、子ども自身の判断】

「悩んでいたのが吹っ切れて行けるようになった」「勇気を振り絞り、友達と関わろうとしたから」

Q25 子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポート

(Q12で「ある」と回答した保護者のみ回答)

Q25 子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポート



Q12で「ある」と回答した保護者に、子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポートについて尋ねたところ、「先生から気にかけてほしい、声をかけてほしい」を選択した割合が55.5%と最も高く、「いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい」と選択した割合が40.6%と2番目に高かった。児童・生徒が特に周囲からのサポートを必要としていない傾向がある一方で、保護者は担任教師から子への声掛けや、相談できる場所の提供など周囲からのサポートを求めている。

また、「その他」の内容としては、「教員の質の向上」「子どもの情報共有」が挙げられる。

【教員の質の向上】

「教員の子どもの理解、対応、接し方などの研修や指導、複数教員での対応」

【子どもの情報共有】

「担任の先生や学校側からの「定期的な」意志疎通行動」「カウンセラーによる観察は必要で、学校側としっかり共有してほしい」

第 4 章 設問・選択肢一覧

<児童・生徒>

低学年	問番号		設問	選択肢
	高学年	中学生		
Q1	Q1	Q1	学年	小学1年
				小学2年
				小学3年
				小学4年
				小学5年
				小学6年
				中学1年
				中学2年
				中学3年
Q2	Q2	Q2	学校生活で最も大切にしていること	勉強
				友達
				運動会などの行事
				クラブ活動、部活動
				特にない
				その他
Q3 (1)	Q3 (1)	Q3(1)	学校は行きたいところ	当てはまる
				当てはまらない
Q3 (2)	Q3 (2)	Q3(2)	学校は自分が成長できるところ	当てはまる
				当てはまらない
Q3 (3)	Q3 (3)	Q3(3)	学校は安心できるところ	当てはまる
				当てはまらない
-	Q4	Q4	自分の将来についてどのように感じているか	楽しみだ
				楽しみでもあるが、不安でもある
				不安だ
				何も感じていない
				わからない
-	Q5	Q5	どのような不安か	進学が不安
				勉強ができるようになるか不安
				自分がなりたい自分になれるか不安
				なんとなく不安
				回答したくない
				その他
Q4	Q6	Q6	学校生活で困ったときに、学校の中で相談したことがある人	担任の先生
				保健室の先生
				スクールカウンセラー
				校長先生
				友達
				相談したいが、誰にも相談できない
				相談したことがない
				その他
-	Q7	Q7	施設やサービスを、1つでも利用していた、または、利用しているか	利用していた
				利用している
				利用したことはない
Q5	Q8	Q8	現在、学校に行けているか	まったく学校に行けていない
				学校に行ける時もあれば、行けない時もある
				学校に行けている
Q6	Q9	Q9	学校に行けていなかったときがあるか	ある
				ない
Q7_1	Q10_1	Q10_1	学校を休んでいる期間	だいたい1週間より少ないお休み
				だいたい1週間以上1か月よりも、少ないお休み
				だいたい1か月以上6か月よりも少ないお休み
				だいたい6か月以上のお休み
Q7_2	Q10_2	Q10_2	学校に行けていないとき、休んでいる期間	だいたい1週間より少ないお休み
				だいたい1週間以上1か月よりも少ないお休み
				だいたい1か月以上6か月よりも少ないお休み
				だいたい6か月以上のお休み
Q8	Q11	Q11	学校での過ごしやすさが理由で、学校に行きたくないと感じるときがあるか	ある
				ない
				わからない
Q9	Q12	Q12	Q11の具体的な内容	学校のルールが理解、納得できない
				持ち物や服装を準備したり整えるのが大変
				制服を着るのが嫌だ
				クラス替えがあり先生や友達が変わった
				たくさんの人と一緒に行動するのが苦手
				学校の騒がしさや大きな声・音が苦手
				学校が古く、汚い感じがする
				1日の授業の時間が長い
				学校の宿題や課題が多い
				先生の進め方や決め方で困ることがある
				運動会などの学校行事が嫌だ
				思い出したくないので回答したくない
				その他
Q10	Q13	Q13	勉強が理由で、学校に行きたくないと感じることがあるか	ある
				ない
				わからない
Q11	Q14	Q14	Q13の具体的な内容	苦手な教科があり、授業についていけない
				得意な教科があり、物足りない
				テストを受けたくない
				先生の授業の進め方で困ることがある
				勉強の仕方がわからない
				勉強する理由がわからない
				思い出したくないので回答したくない
				その他
Q12	Q15	Q15	友達や先生との人間関係で学校に行きたくないと感じることがあるか	ある
				ない
				わからない

問番号			設問	選択肢
低学年	高学年	中学生		
Q13	Q16	Q16	Q15の具体的な内容	友達と上手くいかない、友達に合わせられない 先生と上手くいかない、先生に頼れない 先生が認めてくれない 先生に何も言えない 学校内でいじめられた、または、いじめられている 思い出したくないので回答したくない その他
Q14	Q17	Q17	家族や家庭環境が理由で、学校に行きたくないと感じることがあるか	ある ない わからない
Q15	Q18	Q18	Q17の具体的な内容	家族や家庭環境が変化した 家族と上手くいかない 家族が学校に行かなくても良いと言っている 自分が家族を支える必要がある 思い出したくないので回答したくない その他
Q16	Q19	Q19	自分の気持ちや体調が理由で、学校に行きたくないと感じることがあるか	ある ない わからない
Q17	Q20	Q20	Q19の具体的な内容	何かわからないが不安や気持ちの落ち込みがある 学校に行こうとすると体調が悪くなる 朝になると体調が悪くなる 疲れている、または、疲れやすい 皆と一緒に何かをするのが苦手 友達や相手の気持ちを考えるのが苦手 朝起きられない 夜眠れない 寝る時間が定まらない ゲームやSNSなどで生活リズムが崩れている なぜかわからないが学校に行く気がしない 思い出したくないので回答したくない その他
Q18	Q21	Q21	その他の理由で、学校に行きたくないと感じることがあるか	ある ない わからない
Q19	Q22	Q22	Q21の具体的な内容	学校では自分の興味のあることができない 学校に行かなければならない理由がわからない 思い出したくないので回答したくない その他
Q20	Q23	Q23	学校に行きたくない時に、助けてほしいこと	友達から声をかけてほしい 先生から声をかけてほしい 家族から声をかけてほしい 誰かが一緒に学校に行ってほしい 相談できる人がほしい 学校以外で体を動かす場所がほしい 学校内の教室以外の場所で勉強したい 学校以外で勉強したい 学校以外の居場所がほしい 学校の中で教室以外の居場所がほしい 学校以外で勉強するための教材がほしい そっとしておいてほしい 思い出したくないので回答したくない わからない 特にない その他
Q21	Q24	Q24	学校に行きたくないと感じる理由が無ければ、学校に行きたいと思うか	行きたいと思う どちらとも言えない それでも行きたいと思わない わからない 学校に行きたくないと感じていない その他
Q22	Q25	Q25	最も休みが多かった学年	小学1年 小学2年 小学3年 小学4年 小学5年 小学6年 中学1年 中学2年 中学3年
Q23	Q26	Q26	学校に行くようになった時期	小学1年 小学2年 小学3年 小学4年 小学5年 小学6年 中学1年 中学2年 中学3年
Q24	Q27	Q27	学校に行くようになった理由	勉強に自信がついたから 進学したいから 友達と上手くいくようになったから 先生と上手くいくようになったから 家族の理解や応援があったから 学校の中で教室以外の居場所があったから 誰かが一緒に学校に行ってくれたから 利用していた施設の職員の理解や応援があったから ゆっくり休んで元気になったから このままの自分ではいけないと思ったから わからない 思い出したくないので回答したくない その他
Q25	Q28	Q28	学校に行くようになった後、欲しいサポート	先生から気にかけてほしい、声をかけてほしい いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい 誰か一緒に登校してほしい 勉強のサポートをしてほしい 家と学校以外の気軽に行ける居場所がほしい 利用していた施設の職員の理解や応援は続けてほしい そっとしておいてほしい わからない 特にない その他

<保護者>

※Q1 は居住地域を問う設問のため、省略している。

問番号	設問	選択肢
Q2	Q2 子の学年	小学1年
		小学2年
		小学3年
		小学4年
		小学5年
		小学6年
		中学1年
		中学2年
		中学3年
Q3	Q3 子の学校生活で最も大切だと考えること	勉強
		友達
		運動会などの行事
		クラブ活動、部活動
		特にない
		その他
Q4 (1)	Q4(1) 子にとって、学校は将来に必要な学力を身に着けるところ	あてはまる
		あてはまらない
		どちらともいえない
Q4 (2)	Q4(2) 子にとって、学校は多様な経験を得られるところ	あてはまる
		あてはまらない
		どちらともいえない
Q4 (3)	Q4(3) 子にとって、学校は社会ルールやマナーを学ぶところ	あてはまる
		あてはまらない
		どちらともいえない
Q4 (4)	Q4(4) 子にとって、学校は生活リズムを整えるところ	あてはまる
		あてはまらない
		どちらともいえない
Q5	Q5 Q4の (1) ～ (4) のうち、最も重要だと考えるもの	将来に必要な学力を身に着けるところ
		多様な経験を得られるところ
		社会ルールやマナーを学ぶところ
		生活リズムを整えるところ
Q6	Q6 子について、悩んでいることがあるか	ある
		ない
Q7	Q7 悩みの内容	勉強、学力
		進路、将来
		学校への登校
		友達との人間関係
		言葉使い・態度
		生活リズム、生活習慣
		ゲームやインターネットへの依存
		その他
Q8	Q8 子が学校生活で困ったときに、親が学校の中で相談した人	担任の先生
		保健室の先生
		スクールカウンセラー
		校長先生
		友達の保護者
		相談したいが、誰にも相談できない
		相談したことがない
		その他
Q9	Q9 子は、施設やサービスを、1 つでも利用していた、または利用しているか	利用していた
		利用している
		利用したことはない
Q10	Q10 子が施設やサービスを利用したきっかけ	担任の先生からの情報提供
		スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーからの情報提供
		広報、ホームページなど足立区からの情報提供
		こども支援センターげんきなど足立区の相談機関からの情報提供
		医療機関からの情報提供
		地域活動団体からの情報提供
		友人・知人からの情報提供
		チラシ、ポスター
		インターネット、SNS
		覚えていない
		その他

問番号	設問	選択肢
Q11	Q11 子は現在、学校に行けているか	まったく学校に行けていない
		学校に行ける時もあれば、行けない時もある
		学校に行けている
Q12	Q12 子は学校に行けていなかった時期があるか	ある
		ない
Q13_1	Q13（１） 子が学校を休んでいる期間	だいたい1週間よりも少ないお休み
		だいたい1週間以上1か月よりも少ないお休み
		だいたい1か月以上6か月よりも少ないお休み
		だいたい6か月以上のお休み
Q13_2	Q13（２） 子が学校に行けないとき、学校を休んでいる期間	だいたい1週間よりも少ないお休み
		だいたい1週間以上1か月よりも少ないお休み
		だいたい1か月以上6か月よりも少ないお休み
		だいたい6か月以上のお休み
Q14	Q14 子は、学校での過ごしやすさが理由で学校に行きたくないと感じている、または感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q15	Q15 子は、勉強が理由で学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q16	Q16 子は、友達や先生との人間関係が理由で学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q17	Q17 子は、家族や家庭環境が理由で学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q18	Q18 子は、自分の気持ちや体調が理由で学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q19	Q19 子は、その他の理由で学校に行きたくないと感じている、または、感じていたと思うか	思う
		思わない
		わからない
Q20	Q20 子が学校に行けない時、学校から欲しいサポート	相談できる場所を教えてください
		利用できる施設や行政サービスを教えてください
		子どもの居場所に関する情報を教えてください
		不登校への理解を深めてほしい
		先入観を持たずに話を聞いてほしい
		定期的に連絡してほしい
		学校内に教室に入りづらい子どもが過ごせる居場所を作してほしい
		学校外で勉強できる場所や方法を教えてください
		オンライン授業を受けやすくなるようにしてほしい
		健康診断を受けやすくなるようにしてほしい
		教室外や学校外でテストを受けることを認め評価してほしい
		特にない
		その他
Q21	Q21 子が学校に行けない時、学校以外から欲しいサポート	不登校の子どもを持つ親同士が交流できる場が欲しい
		不登校の経験がある当事者の経験談を聞ける場が欲しい
		足立区ホームページの不登校支援に関わる情報を充実してほしい
		足立区からSNSなどで不登校支援に関わる情報を定期的に発信してほしい
		不登校の子どもの進路に関する情報を教えてください
		足立区が設置する相談機関を増やしてほしい
		オンラインによる相談をできるようにしてほしい
		学校以外で子どもが過ごせる居場所を増やしてほしい
		特にない
		その他

問番号	設問	選択肢
Q22	Q22 子が学校に行く、または行けるようになった時期	小学1年
		小学2年
		小学3年
		小学4年
		小学5年
		小学6年
		中学1年
		中学2年
		中学3年
Q23	Q23 子が最も休んでいた学年	小学1年
		小学2年
		小学3年
		小学4年
		小学5年
		小学6年
		中学1年
		中学2年
		中学3年
Q24	Q24 子が学校に行く、または行けるようになった理由と思うもの	勉強に自信がついたから
		進学したいから
		友達とうまくいくようになったから
		先生とうまくいくようになったから
		家族の理解や応援があったから
		学校の中で教室以外の居場所があったから
		誰かが一緒に学校に行ってくれたから
		利用していた施設職員の理解や応援があったから
		利用していた医療機関の職員の理解や応援があったから
		ゆっくり休んで元気になったから
		このままの自分ではいけないと思ったから
		わからない
		その他
Q25	Q25 子が学校に行く、または行けるようになった後、欲しいサポート	先生から気にかけてほしい、声をかけてほしい
		いつでも誰かに相談できるようにしてほしい、話を聞いてほしい
		誰か一緒に登校してほしい
		勉強のサポートをしてほしい
		家と学校以外の気軽に行ける居場所がほしい
		利用していた施設の職員の理解や応援は継続してほしい
		利用していた医療機関の職員の理解や応援は継続して欲しい
		そっとしておいてほしい
		わからない
		特にない
		その他

